

名古屋芸術大学

後援会報

第56号 2014年3月31日発行

## CONTENTS

1	目次	25	音楽学部 第41回卒業演奏会報告
	後援会へのお誘い(委員募集)		大学院音楽研究科 第16回修了演奏会報告
2	卒業生に贈る言葉		美術学部 第41回卒業制作展報告
3	名古屋芸術大学近況報告	26	大学院美術研究科 第18回修了制作展報告
12	学生部報告		大学院デザイン研究科 修了制作展報告
13	在学生及び卒業生の 展覧会・各種コンクール等受賞結果	27	第24回生涯学習大学公開講座報告
16	芸大祭報告	28	国際交流留学レポート
17	私が就職内定をもらうまで	29	2013年度ブライトン大学賞
19	親の想い	30	同窓会総会・卒業生懇親会報告
	子の想い	31	大学運営組織図
20	大学へのお問合せ先一覧	32	後援会授業料貸付事業のご紹介
21	後援会補助公開講座実施報告	33	名古屋芸術大学・大学院後援会会則
23	2013年度デザイン「Review」展のご案内	34	木祖セミナーハウスのご紹介
24	後援会研修旅行報告		編集後記

### 後援会へのお誘い(委員募集)

皆様から頂いている後援会費は、公開講座等の補助、また芸大祭やクラブ活動の補助、学生自治会、国際交流、謝恩会補助や就職活動補助など様々な活動の補助として役立てられています。また私ども役員も自分の子供だけでなく同じ親として、子供たちに関わることができ、とても幸せです。

委員といっても常にかかわっているわけではなく年に4回程度の委員会など苦痛に思うことは一切なく皆さんとの交流など楽しいことばかりです。

学校に行く楽しみもあります、何十年も前の学生生活を懐かしみつつ、子供の生活を身近に感じ、また学長先生から直接学校の方針を聞いたり学校に出向かないとわからないこともあります。

まずは定期総会に出て学校の方針や担当の先生から直接子供の様子を聞き、学内を見学してみませんか？

#### 【委員を募集しています】

お問い合わせは名古屋芸術大学事務局の川村幸義までご連絡してください。

電話：0568-24-0315（内線385番）

メールアドレス：kouenkai@nua.ac.jp

副会長 飯田康子



## 卒業生に贈る言葉



後援会長 萩 達也

ご卒業おめでとうございます。大きな期待と不安を抱えながら入学された皆さんが、立派に卒業を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。この日を心待ちにしておられた保護者の皆様にも、改めてお慶びを申し上げますとともに、後援会に対するご支援ご協力に、心より感謝致します。

さて、今はグローバル化の時代だと言われていきます。この地球上のどこかで起こったいかなる変化も私たちの生活に無縁ではありません。遠い外国で発生した経済危機が、瞬間に世界中へと伝播します。急成長を続けていた中国経済の成長が鈍化すると、そのまま日本経済を揺るがす時代になりました。私たちは経済競争で他国に負けぬよう、努力しなければなりません。皆さんも対岸の火事と思わず、ぜひ関心を持ち続けてください。

今日、この日から皆さんは、一社会人として世界へと船出していきます。それは、これまでの学びとは違い、多様な社会情勢の中で、自らの在り方を考えることです。皆さんが大学で学んだ知識や経験は、必ず実社会で役立ちます。過去の失敗を省みて、常に向上心と目標を持ち、人生を歩んでください。人生には様々な幸福があります。努力が認められなくても、有名企業で働かなくても、金持ちにならなくても、幸福の扉は数限りなくあります。それを開けるのは皆さん自身です。他人とは比較しないで、自分自身の幸福を見つけ、人生ドラマの主人公となってください。そして困難な道を歩んでください。若い時の苦勞や挫折は必ず将来の糧となります。どうしても虹が見たいというなら、そのために雨は必須です。雨に耐えて、空を見上げてください。流した汗と涙の見返りは後から付いてきます。

最後に、本学の教職員の皆様には4年間ご指導ご鞭撻を受け賜わり、深く感謝申し上げます。本学と後援会の益々のご発展を心からご祈念し、挨拶とさせていただきます。



学長 竹本 義明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

昨年からは本学卒業生と交流する機会があり、社会で立派に活躍されていることを知り大変勇気づけられました。一般大学と違い、卒業後すぐの就職は叶わないかも知れませんが、数年後には多くの方が責任ある立場で仕事しているようです。

本学は、従来から芸術文化ならびに人間発達の創造発展に寄与する人材育成を目的とし、創造的な教育・研究により地域社会の発展に大きな役割を果たし、社会貢献という新たな使命に取り組んでいます。

社会では芸術的感性を必要とする仕事が増加していますが、社会における芸術表現活動を継続的に行なうための仕組みが必ずしも整備されていないのが現状です。

特に企業の発展にとって文化・芸術の香りが必要とされるようになる中で、地域自治体においても地域の文化活動に協力する人材不足が指摘されています。

大学が存立する事により地域の魅力づくりに貢献していると考えられますが、芸術系総合大学として、地域文化振興に貢献する責任があると考えています。

文化振興を促進させる条例制定状況は、都道府県で53.1%、政令市で33%、中核市で18.6%が制定されており、自治体における文化行政の指針として策定された文化創造プラン、あるいは文化振興プランの策定状況は、都道府県で82.9%、政令市で75%、中核市で51.1%、市町村では7.9%となっています。

これらの条例やプランは、自治体の総合計画との関連で策定され、最近では生涯学習基本構想との関係も加わることになっています。自治体では財政や人口の規模により公共文化施設の運営に関わる方針が異なるものの、基本的な枠組みに共通性が見受けられます。

このように大学を取り巻く環境に対応するため、あらためて本学として芸術の社会的存在意義、芸術表現を批判的に理解し判断する力、芸術を中心に他分野の学問との学際的研究、そして、諸外国との交流を通じた芸術活動の理解を可能にする取り組みを強め、社会で活躍できる卒業生を支援したいと考えています。

# 名古屋芸術大学近況報告

## 音楽学部

### 《演奏学科》

#### 声楽コース

声楽コースでは、歌曲研究とオペラ研究を主な研究課題としています。その研究成果の発表の場として、本年度も「歌曲の夕べ」と「オペラ公演」を設定しました。

「歌曲の夕べ」は、2月8日(土)に、千種区にある「HITOMI HALL」で行われました。当日は、オーディションで選ばれた2年生から4年生までの学生と賛助出演の大学院生達が、満員の観客の前で、日頃の練習の成果をしっかりと発揮し、多くの温かい拍手を頂きました。又、「オペラ公演」は、3月8日(土)に三井住友海上しらかわホールに於いて第36回名古屋芸術大学オペラ公演としてモーツァルトの「魔笛」の縮小版「小さな魔笛」を上演します。今回は、演出、指揮、指導の教員を除いては、キャスト、スタッフ、オーケストラ、衣装、小道具等は、全て学生達の手による汗と努力の結晶とも言える、正に「学生オペラ」だと思えます。学生達が今までの成果を存分に発揮して伸び伸びと歌い演じ、満員の観客からの温かい拍手につつまれる素晴らしい公演になることを期待しています。

声楽コース 教授 土佐 誠

#### 弦管打コース

2013年9月24日に愛知県芸術劇場コンサートホールにて、ウィンドオーケストラ第32回定期演奏会が行われました。

昨年同様、本学教授竹内雅一、客員教授ヤン・ヴァンデル ロースト両氏による指揮のもと10曲が演奏され、大盛況の本番となりました。今回のプログラムの中には、毎年恒例行事となっているデ・ハスケ社の録音の曲も含まれており、近々CDで発売が予定されています。

10月3日にはあいちトリエンナーレ2013祝祭ウィークショービジネスに乾杯！が愛知県芸術劇場大ホールで行われました。これはミュージカルコースと弦管打コースのコラボで、ウィンドオーケストラの演奏でミュージカルの舞台が進んでいくという本学ならではの企画ですが、非常に多くの観客に会場頂き大成功を収めました。

10月24日は名古屋芸術大学オーケストラ第31回定期演奏会が行われました。今回は本学客員教授の近藤嘉宏氏をソリストに迎えブラームスのピアノ協奏曲第1番を、またチャイコフスキーの交響曲第1番、デュカスのファンファーレとバラエティーにとんだプログラムとなりました。特にピアノ協奏曲に関しては、演奏機会の少ない曲だけに、学生にとってはとても良い経験になったと思います。本番も近藤先生の繊細かつダイナミックな演奏で観客を魅了していました。

12月17、19日と第32回室内楽の夕べが行われました。17日は本学3号館ホールにて授業の発表ともなる大編

成のアンサンブル、19日はオーディションで選ばれた12団体が熱田文化小劇場で演奏しました。どの団体も好演で、来場した観客からは暖かい拍手が送られていました。

年が変わり2014年2月24日には、アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン第15回定期演奏会が江南市民文化会館大ホールにて行われました。この演奏会は弦管打コースの1年生が主体で、1部でマーチングと学生による作・編曲作品、2部は既成の作品の演奏となっているのが特徴です。今年も本学講師小野川昭博、客員教授ヤン・ヴァンデル ロースト両指揮者にゲストコメントーター鈴木英史氏を迎え、とても楽しい雰囲気での演奏会となりました。

弦管打コース 准教授 依田嘉明

#### ピアノコース

9月16日～24日「パリ・エコール・ノルマル音楽院ピアノコース研修旅行」を実施し、ピアノコースの学生、18名が参加しました。毎日の練習、音楽院二人の先生それぞれから内容あるレッスンを受講後、ホールで一人ずつ全員演奏。大変充実した研修を終えました。

#### ○ピアノコース「公開講座」

11月7日、フレデリック・ショパン音楽大学教授イェルジ・スティルチンスキ先生を招き、テーマ「ショパンの作品の読み方・演奏法について」のもと、楽譜の読み方・鍵盤上の正しい手のポジション・倍音の利用・楽譜に表情を書き込む・自分でどのような音を出したいかイメージを持つ、など実際的な内容を、ピアノ演奏をまじえ話していただきました。11月28日には、3号館ホールで「福原彰美リサイタル」を開きました。ジュリアード音楽院他で学び、アメリカ・日本で活動するピアニスト。学生は、年齢に近いこともあり親近感を抱き、ベートーヴェン：ピアノソナタ 作品109、ストラヴィンスキ：ペトルーシュカからの3楽章、リスト：ピアノソナタ 口短調、という重厚なプログラムの好演に、耳を傾けていました。12月5日には、アレクサンダー・セメッキ教授による「ムソルグスキー 展覧会の絵」レクチャーが行われました。モスクワ音楽院でエミール・ギレリスに師事された先生の演奏は、スバラシイの一言。楽曲内容、難箇所部分の先生考案運指の紹介など、大変興味深い、有益な講座でした。

これらとは別に、10月24日、愛知県芸術劇場で行われた「名古屋芸術大学オーケストラ第31回定期演奏会」に、ピアノコース客員教授 近藤嘉宏先生が客演。ブラームス：ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15を好演されました。

#### ○ピアノコース「学生の演奏」

11月13日「ピアノの夕べ」電気文化会館 ザ・コンサートホール、オーディションで選ばれた学生がソ

ロ・デュオの楽曲を演奏しました。11月21日には「第36回定期演奏会」が、しらかわホールで開かれ、ピアノコースから四年生4名が出演しています。2014年1月11日、毎年開催されている「北名古屋市民芸術劇場」～新春コンサート～。名古屋芸術大学客員教授 古谷誠一先生指揮による名古屋芸術大学オーケストラとの協演による、グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調 作品16を、第1楽章 貝田佑里恵（ピアノコース4年）、2・3楽章 高岸由佳（ピアノコース 37回卒業生）の二人が好演しました。2月13日「春のコンサート」電気文化会館 ザ・コンサートホール（ピアノコース4年生）。2月18日「Piano in Bourree」カワイ プーレ（ピアノコース1・2・3年生）。この後、2月28日「第41回卒業演奏会」が、しらかわホールで開かれます。他に、アレクサンダー・セメッキ教授によるピアノコース4年生全員のレッスンは1月25日、2月3・4日の3日に分けて、行われました。

ピアノコース 教授 田中航造

### 電子オルガンコース

2013年度の電子オルガンコースは新入生激減の憂き目に合いまして、コース長としては皆々様に対して面目ない次第でございます。しかしながら（決して言い訳ではなく）少数精鋭とはよくぞ申したもので、大変優秀なレベルの学生を向かい入れることができたご報告させていただきます。

去る昨年の6月29日、名古屋音楽学校で催された本学主催のコンサートにおいて、ピアノコースの学生と共にグリーグ作曲のピアノ協奏曲・イ短調という名曲の全3楽章のオーケストラパートを1年生のうち二人が演奏しました。入学後、いきなりの大役でしたが堂々とこなしてくれ、大変嬉しかったです。この日の演奏会は金管合奏ともう1曲のピアノ協奏曲（モーツァルトの20番・二短調）とが演奏されましたが、電子オルガンはその全てに絡み（これらの曲は2年生の二人でした）コースにとっては得難い演奏・学習機会となりました。

春はゴールデンウィークの名古屋駅のお祭り『えきトピア』に於いて、本学電子オルガンコースのプロデュースによる『スーパーキッズ・エレクトーン・オーケストラ』が成功裏に終わりました。愛知・岐阜・三重の小学生4人が駅前大通りのパレード会場（車道を一時封鎖する）でエレクトーンを弾く催しです。特別ゲストのエリック・ミヤシロさんのトランペットとの2曲共演も何とか形になりました。イベント主催者のご理解で、名芸のステージも駅前大広場に作っていただき、パレード前はアーバンJazzオーケストラ、ミュージカル・コースと一緒に私も電子オルガン（ソロとアンサンブル）で共演させていただきました。

恒例になりました夏のワークショップも無事に終了しました。7月14日、本学キャンパスでの開催ですが東海3県からを中心にごくさんの方々（指導者や音教生ご家族）にいらしていただき盛況でした。今回の特別ゲストはトッププレイヤーの窪田宏氏。ホールでのスペシャルライブはお客様、学生のみならず、我々教員にも素晴らしい刺激が与えられた観が有ります。ライブのみならず、

我々教員によるワンポイント・クリニックや講座なども喜んでいただけたので、ますます今後も定着をはかって、良い学生募集ともなれるよう、また頑張ろうという所存です。

『アースエコー』と呼んでいるコース定期演奏会も、昨年12月10日、熱田文化小劇場で催し、こちらにも大勢の皆さんにお越し戴けました。Jazz有り、クラシック有り、タンゴ有り、クリスマス音楽の名芸風などというものも作り…相変わらずの盛りだくさんなコンサートでしたが、おかげさまでこちらも好評を戴けました。

これからも名芸らしい「活きた音楽」を電子オルガンコースからも発信しつづけてまいりたい所存でありますので、どうぞこれからもよろしくお願い致します。

電子オルガンコース 准教授 鷹野雅史

## 《音楽文化創造学科》

### ミュージカルコース

今年の2月9日に、今年で6回目となる「飛騨・童話会議Ⅱ」のミュージカル「童話の森の探偵団」を上演致しました。最近では、飛騨地方の皆様にも定着したイベントとなり、数多くの参加者と観客の皆様にも囲まれての楽しい公演となりました。

ミュージカルを根付かせるには長い時間がかかります。この6年間、学生やミュージカル研究所の研究者たちが高山に通い、共に学び、指導を続けて来たことがひとつの素晴らしい花を咲かせたのだと思っています。毎年の公演は、ミュージカルコースの学生にとっても最高の舞台となっています。

また、1月5日にはこれも4回目となる「ベストテン・コンサート」を西春勤労会館で開催致しました。（主催＝北名古屋市 後援＝ポッカ・サッポロ・フード・アンド・ビバレッジ）この日は700人の会場に立ち見が出るほどの盛況で、北名古屋市にある大学と市民の皆様がひとつとなった、新春のスタートにふさわしい催しとなりました。

3月7日には、アートピアホールで恒例のミュージカル3月公演「ミステリアス・ディーバ」を上演致しました。引退した歌姫の突然の復活宣言が巻き起こす騒動をミステリー・タッチで描いた一寸、怖い作品でした。

ミュージカルの学生たちは今年も充実した一年を過ごしました。忙しくても、辛くても笑顔を決やさない学生たちはとても頼もしい存在です。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

### ジャズ&ポップスコース

音楽文化創造学科にジャズ&ポップスコースが設置されて13年になりますが、最近ではジャズよりポップスを志向する学生が増加し、ボーカル、ギター、そしてドラムを専攻する学生が目立つようになりました。

ジャズはポップス系音楽分野の中で古いクラシカルなイメージで捉えられ、楽曲の理解とともに、創造的な演奏技術の取得が必要とされます。本コースではジャズに主体性をおいたカリキュラムによりコースを展開していましたが、現在ではポップスに配慮したカリキュラム改編が必要と考えられます。

2年生からのセッション授業は、学年を超えたセッションメンバーの編成から始まり、楽曲を決め分析をしてセッションと歌唱、楽器別の指導が行なわれます。授業で行なわれた演奏は、定期的に学内で実施されるロビーコンサートでその成果を発表することができ、3月の卒業演奏会では卒業生に在校生も加わり、コース全体で望ましい演奏が繰り広げられます。

最近では、地域から演奏依頼の機会もあり、活躍の場は広がる傾向にあり、学生は実際に数多くの演奏を行なうことで、貴重な経験を積んで技術力や表現力の向上を実現しています。

今後は、音楽学部にも多様なコースが設置されており、是非他コースとの交流を深め自らの専攻分野を充実して頂くよう希望しています。

ジャズ・ポップスコース 教授 竹本義明

## アートマネジメントコース

2012年の6月、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が成立しました。劇場、ホール、文化施設の関係者たちがずっと待ち望んでいた法律でした。これにより日本の文化施設が担うべき文化の振興に拍車がかかることが期待されます。今まで、図書館には図書館法が付属して図書館の役割が明示され、国家資格を持った司書がその任を負ってきましたし、また美術館・博物館にも博物館法がその役割を公に謳い、やはり国家資格を持った学芸員がその仕事を行ってきました。しかしながら公立文化施設の大部分を占める劇場や音楽堂（ホール）には、これまで専門の法律も、さらに資格を持った専門家もいませんでしたが、この「劇場法」が成立したことにより、やっと文化施設の担う文化振興の重要性が認識され、かつその任務が明確になり、そしてそのための予算も認められることになりました。文化庁は、この法律の成立とともに、文化の振興を図る専門家の育成の必要性を述べています。これこそが、アートマネジメントに係わる人材の育成であることは間違いありません。図書館にとっての司書であり、美術館・博物館にとっての学芸員に相当する専門家とならぶアートマネジメント人材の公の認知となるでしょう。私たちアートマネジメントコースにとって、特に今年度はこうした熱い期待を様々なところで感じてきました。またそうしたお声に応えるべく、様々な機会を得てお話しをさせて頂き、さらに来年度からは、アートマネジメントの資格認定へと向けた活動を行っていくことにしています。アートマネジメントコースとしては、文化庁の大きなお墨付きと応援を得て、これからアートマネジメントの人材の発掘と育成に邁進していく積もりです。そして学生たちが社会に出たときにはその能力を遺憾なく活用・発揮していってくれるよう、スタッフ一同が願っています。

アートマネジメントコース 教授 山田 純

## 音楽教育コース

本コースの目標は、教育現場をはじめさまざまな音楽活動の場で、指導的な立場に立つことのできる音楽教育者を育成することですが、そのためには種々の音楽シーンに触れ、多くの音楽的体験を重ねることが大切だと思われま

す。前号でもご紹介しましたが、9月中旬には1年生を中心に、「日本の音を探そう！」をテーマに犬山に参りました。城下町犬山では、古い民家の格子戸を開ける音、お寺の鐘の音、風鈴の響き、犬山祭りの笛や太鼓の音等、日頃あまり意識せずに耳にしている多くの日本の音に出会うことができ、改めて日本の音の魅力に触れました。中でも国宝茶屋「有楽苑」の水琴窟の澄んだ音色は、とても印象に残ったようです。

また、11月には茨城大学の田中健次教授をお招きして、「うたの力」について教職特別講座を行いました。明治時代に作られた唱歌をはじめ、校歌や国歌等さまざまな「うた」とその歴史的背景が紹介され、「うたの役割やうたの意義」を深く学びました。さらに、1月には「明治時代の学校唱歌を聴く」というタイトルで、明治14年に発行された、日本で最初の音楽教科書『小学唱歌集』に収められている唱歌を聴く会（生演奏）を企画しました。

なお、今年度の音楽教育の4年生は4名ですが、いずれも優れた卒業論文を書き上げ、コース学生全員が集まって2月14日に卒論発表会を行いました。引き続き行われた交流会では、先輩から後輩へ色々なアドバイスがあり、有意義なひとときでした。4年生全員、すでに就職が決まりましたが、今後は本学本コースで学んだことを活かして、社会で活躍してもらいたいと心より願っています。

3月には3年生を中心に、ゼミ研修で小豆島（壺井栄作『二十四の瞳』映画村）を訪れます。戦前、戦中、戦後の学校教育の歴史に触れ、学生たちが多くを学ぶことを期待します。

学生たちがさまざまな音の世界に触れ、歴史を知り、物事を深く考える力を身につけられるようなコースにしたいと思っています。

音楽教育コース 教授 金子敦子

## 音楽療法コース

音楽療法コースでは、引き続き大学内での勉学を基礎に、地域の各施設で音楽療法の実習を行っています。今年度の学生も非常に意欲的で、実習の組み立て、遂行、評価全体において主体的に参加し、また学年間の交流も大変活発です。

12月には、各施設での締めくくりのコンサートを行いました。さらに同月22日には学内大アンサンブル室にてクリスマスコンサートが行われました。当日は、午前と午後の部2回に分けて開催され、地域の子どもたちやその保護者の方々、お世話になっている地域施設の関係者の方々等、合計で120名あまりがご来場くださいました。コンサートでは、学生たちや有志卒業生の演奏が披露されました。管楽器やハンドベル、ピアノ連弾などの演奏のほか、バンド演奏やトーンチャイム、独唱さらには和楽器（三味線、箏）による演奏も加わったことで曲目は大変多彩なものとなり、子どもから大人まで楽しめるコンサートとなりました。



た。また、参加型のプログラムではご来場の方々と一体となった演奏が行われ、音楽療法コースならではの時間を全員で共有することができ、大変盛会のうちに幕を閉じることができました。



また、1月19日には、日本音楽療法学会認定音楽療法士(補)の試験が東京にて行われ、4年生全員が合格するという快挙を成し遂げました。学内での特別授業、個々の学習が結果に結びついたことを、教員も大変うれしく感じております。

音楽療法コース 教授 久保田進子

### サウンドメディアコース

サウンドメディアコースでは、9月9日より1泊で清里・清泉寮で1年生のフレッシュマンキャンプを行いました。ここでは4年間の具体的な学習内容の確認をはじめ、楽曲制作、音響、録音の各分野に別れ、事前に課していた課題を中心に担当教員と密接なディスカッションを行うことで、個々の能力に応じた教育プログラムを確認することができました。

12月1日より3日間、トーンマイスターとして世界各地で高い評価を得ている、本コース特別客員教授エバーハート・ヒンツ氏の特別講義を碧南エメラルドホールと2号館スタジオで、木管五重奏と邦楽器のアンサンブルのセッション録音をテーマとして開催しました。今回の特別講義は、学内関係者のみでなく公開講座として行われ、AES日本支部会員を中心に東京・大阪から多数の参加がありました。受講者はトーンマイスターの意見と実際の録音に接することができ、とても貴重な機会となりました。



また、例年実施している本コース、アートマネジメントコース、デザイン学部がコラボレーションし企画するイベント「カレイド・スコープ」を、2月27日に愛知県立文化センター小ホールで行いました。サウンド・メディアコースでは、楽曲制作、音響、録音を担当しましたが、普段の学習結果の集大成の場であると共に、最先端のテクノロジーを駆使した実験的な音楽空間作りを目指して、コースが総力を上げて取り組みました。本年のカレイド・スコープは、国際的に活躍するドイツの作曲家オリヴァー・シュネラ氏を招き、ヴィブラフォンとエレクトロニクス作品の披露と、コンサート前には公開講座を行い、新作、過去に制作したエレクトロニクス作品をどのように制作しているかについて講演頂き、充実した内容で終わることができました。

本コースでは、これからも「音楽制作」「録音」「音響」の3つの分野を教育の柱とし、充実した学生生活と、学ぶ事の満足感を常にもってもらおうよう、教育内容を工夫していきます。

サウンド・メディアコース 講師 長江和哉

### 作曲・理論コース

作曲コースでは、作品を構築するのに必要不可欠なエクリチュールを徹底的に学ぶ事で、構成員のはっきりした作品作りが可能になるよう教育しています。

1、2年生次では様々な作曲理論を学び、3、4年生では室内楽作品を実際を書くことが、学生個人個人のスキルアップにつながっています。

例年行われている、試演会は、今年も3月4日に実施しました。各学生の作品を、学内外の演奏者に演奏をお願いしての公開試演会を開催しています。これは、各学生が学年ごとに決められた課題作品を、半年ないし1年かけて作曲し、それを実際に音にすることで、譜面上でのイメージと演奏を通じた実際の音との違いを経験することができます。このことも、学生個々のスキルを上げるために大変意義のあることと考えています。今回は弦楽4重奏、クラリネット5重奏、ピアノ4重奏など、弦楽器の使われた作品が多かったです。



さらに例年開催されているサウンドメディアコース・音楽ビジネスコース主催のイベント「カレイド・スコープ」では、電子音を使った最先端の技術を生かした作品を発表した学生もおりました。

作曲・理論コース 教授 田中範康

## 《演奏学科・音楽文化創造学科》

### 音楽総合コース

音楽総合コースは、学ぶにあたり定まったカリキュラムがありません。一人一人がそれぞれの関心により教科を選択し、単位を修得していきます。学生たちは、オリエンテーションで単位修得の仕方を知り、教員による面談の場で学生生活および単位取得に関するアドバイスをうけながら学習していきます。

2013年度9月および11月には、音楽総合運営委員と音楽総合担任教員による学生面談が行われました。この結果、学生たちはほぼ全体としてよく努力し、順調に単位を履修していることがわかりました。

今後、3月上旬に二日間の面談が予定されています。ここでは、2年生については、3年次所属コースについて最終的な選択をします。

音楽総合コースは、3年次以降は音楽総合コース以外のコースに所属するか、音楽総合コース所属のままいくかを選択します。最近の傾向としては、音楽総合コースに所属し、3年次以降も広い視野から音楽を学ぶ学生たちが主流です。

音楽総合の来年度入学者は、倍増しそうです。すでに音楽学部最大のコースになっていますが、さらに学部の学生数に占める比率が増えます。このことによって、音楽総合コースはいっそう活力をまして発展すると期待しています。

音楽総合コース運営委員会委員長 教授 中河 豊

# 美術学部

名古屋芸術大学 洋画2コース

洋画② & 同時代表現研究 + 現代アート news  
Contemporary Art

## 洋画コースOB・OGの活躍!!!

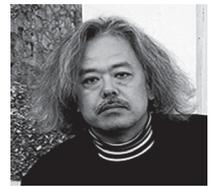
### グラント (Grant) って、なに??.

グラントは科学研究などを支援する目的で個人・グループ・組織などに対して政府機関や民間の財団から交付される一定の補助金・寄付金のことです。

芸術分野でも若手アーティスト海外派遣事業など、国や企業が研究活動資金を出資して芸術家を支援する様々な制度が設けられていて、名古屋芸術大学洋画コース卒業生もこれらの助成を受けつつ、国内外で自由に活動しています。他にも、多くの卒業生達が公私大小に限らず展覧会などで受賞（賞金含む）していますが、以下に紹介している洋画コース卒業生達はグラントとしての意味合いが濃いと思われる助成制度によって支援された一部の方々です。洋画2コース教授 大崎正裕

### ●各グラント受給者 [敬称略]

**古井戸 芳生** (1978年卒業) : 名古屋市文化振興事業団・新進芸術家海外助成を受け、大英博物館 (イギリス) を研究機関として、ロンドンにて滞在研究しました。また、愛銀文化教育財団(本社:名古屋市)個人助成も受けました。現在は企画画廊や様々なアートシーンに参加して活躍しています。



**松本 幹永** (1985年卒業) : 名古屋市文化振興事業団・新進芸術家海外研修助成にてイギリスとオランダにて滞在研究しました。愛銀文化教育財団(本社:名古屋市)個人助成も受けています。



**関 智生** (1988年卒業) : 愛知県新進芸術家海外留学等補助事業研修員の審査に通り、多額の助成を受けてノッティンガム・トレント大学 Fine Art にて修士取得しました。その際に Distinction、その後、セントラル・セント・マーティンス・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインにて Associated Student を修了し、5年間のイギリス滞在を経て帰国しました。現在は日本で作家活動をしています。



**河原崎 貴光** (1998年卒業) : 平成13年度京都市芸術文化特別奨励者です。専任教員として7年間教鞭をとった京都造形芸術大学を離れて、現在は、徳島大学専任教員の立場で後進を指導しています。[京都市芸術文化特別奨励は若い芸術家の方々を支援するため、奨励者にそれぞれ300万円を支給する制度です]



**鬼頭 健吾** (2001年卒業) : 五島記念文化財団の助成を受けて1年間ニューヨーク滞在研究、翌年から2年間文化庁芸術家在外派遣研修員としてベルリンにて制作研究活動をしていました。東京銀座旗艦店エルメスショーウィンドーにてディスプレイ作品を発表。現在、ドイツやロシアなど国内外のアートシーンで活躍しています。



**秋吉 風人** (2001年卒業) : 財団法人吉野石膏美術振興財団在外研修助成と文化庁新進芸術家海外研修制度の助成を得、翌年にポーラ美術振興財団の助成を受けてドイツ (ベルリン) を拠点に制作研究活動しています。あいちトリエンナーレ 2010(愛知芸術文化センター) 出品作家に選抜され、作品を発表した。あいちトリエンナーレ 2010(愛知芸術文化センター) 出品作家に選抜されて作品を発表しました。2014年からは日本に戻り、今後も国内外で活躍する予定です。



**佐藤 翠** (2008年卒業) : 万年筆メーカーのモンブランが7名の秀れた若手作家の作品をモンブラン銀座本店 (東京) にて展示、展示期間中に人気投票を行ってナンバー1を決める芸術文化支援活動「ヤングアーティストパトロネージインジャパン」プロジェクトに出品・展示しました。展示作品はモンブランコレクションになります。又、VOCA2013展 (東京 / 上野の森美術館) にて大原美術館賞を受賞、出品作品は大原美術館に所蔵されました。



## 大幸財団学会等開催助成制度

大幸財団学会等開催助成受給者として河原崎貴光(1998年卒業)、村田仁(2003年卒業)、坂本和也(2012年卒業)が審査に通り、受給した。

[大幸財団学会等開催助成制度は愛知県内の大学等学術研究機関に所属する研究者を対象に、自然科学系の基礎的分野において、顕著な業績を挙げつつある研究者や萌芽を生み出しつつある研究者に対して、その研究を発展させるための研究費を財団選考委員会の審査を経て助成する制度です]



作者：河原崎貴光



パフォーマンス風景：村田仁



作者：坂本和也

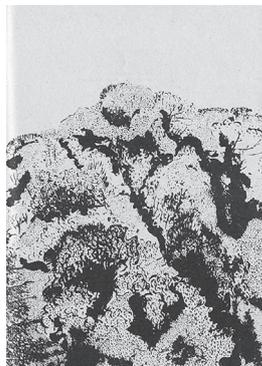
## ホルベイン・スカラシップ

ホルベイン・スカラシップ(奨学制度)にて原充諭、藤江誠、関智生(1988年卒業)、落合竜也(2003年卒業)、松本幹永(1985年卒業)、吉本作次(1984年卒業)、渡部裕二(1997年卒業)、太田元弘(1985年卒業)、川島沙紀子(2003年卒業)、佐藤翠(2008年卒業)、伊藤歌奈子(2009年卒業)、三井園子(1992年卒業)等が選ばれています。

[ホルベイン工業株式会社<本社：東大阪市>は、平面・立体を含む彩色(油彩・アクリル)を必要としているコンテンポラリーアートの作家に材料援助、優れた創造推進と美術界発展に寄与するため、1985年、ホルベイン・スカラシップ(奨学制度)を発足。認定者には1年間総額50万円相当のアクリル、油絵具をはじめとするホルベイン工業の全製品を無償提供しています]



作者：渡辺裕二



作者：関智生



作者：吉本作次



作者：佐藤翠

## 堀財団文化芸術支援事業

堀財団文化芸術支援事業「Dアートビエンナーレ展」にて石神則子(2005年卒業)、亀井梓(2011年卒業)が入選・受賞した(賞金有り)。

[堀財団<本社：名古屋市>文化芸術支援制度：2010年9月1日、公益財団法人の認定を受け、名称を「公益財団法人堀科学芸術振興財団」に変更し、科学以外に文化芸術活動の支援に分野を拡大、文化のみ「堀美術館」を運営するとともに、若い現代アートの芸術家の支援として、「Dアートビエンナーレ展」、及び愛知県芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学の学生の創作活動を支援する「三芸大学生選抜H/A S C A展」を主催して各賞を設けて若きアーティストに活動資金を提供しています]



作者：石神則子



作者：亀井梓



名古屋芸術大学  
NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS

< 作品写真などが毎号で重複するのは著作権が取扱いギャラリーや撮影写真家に移るためです >

レイアウト：Mizuki Hatakeyama

取材 / 編集：Masahiro Osaki

## デザイン学部

雲の切れ間の日差しや、日溜りに少し春のきざしを感じるものの、吹く風は未だ冷たくてコート姿が目立っています。冬枯れのキャンパスの人影も、年度末に向けて少なくなってきました。

大学は、後期15週の授業が終了して、補講・集中講義・試験期間に入っています。学部1年生は、年間の基礎教育(ファンデーション)を終えて、レヴューに於いて展示発表(プレゼンテーション)を経験しました。教員スタッフとの面談(インタビュー)を踏まえて、次年度に籍を置くブロック・コースを選択して、デザインの専門教育へ入っていきます。2年生は、ブロック・コースの専門基礎教育を終えて、レヴューでの展示発表(プレゼンテーション)を踏まえ、次年度のより高度な専門教育に向けて、各人が準備します。3年生は、多種多様な課題に取り組んだ一年間を終えて、学部最終年を迎えます。各人が将来を思い描きながら、自らを他者に紹介する為のポートフォリオ制作を、多くの学生が進めています。4年生は、卒業制作が終盤となり、学外での展示発表に向けて準備中で、最終段階に入っています。年明けの大学は、学生も教職員も年度の集約と次年度に向けての準備で忙しい状態です。年度末3月に向けて、入学試験実施等のスケジュールが連続します。

ここでは、今年度(2013年)後半に、本学デザイン学部が学内外に向けて実施した、主な講座やイベント等をお知らせします。

・9月12日～12月1日／産学協同研究〈デザイン学部メディアコミュニケーションデザインコース〉柳橋中央市場中央市場総合食品センター販促会活性化のためのコミュニケーションメディアの制作をしました。



・9月24日／2013年度「シャチハタ×名古屋芸術大学」産学連携ワークショップがスタートしました。



・9月27日～29日／名古屋帽子協同組合・ネーム刺繍をあしらった帽子が制作され、尾張名古屋職人展の中でファッションショーが行われました。



・9月28日／美術学部・デザイン学部のオープンキャンパスが行われました。



・10月5日～27日／あいちトリエンナーレ2013パートナーシップ事業四間道・円頓寺まちかど美術祭が行われました。



・10月8日／2013年度「シャチハタ×名古屋芸術大学」連携ワークショップ商品企画レクチャーが行われました。



・10月25日～11月2日／2013年度アート&デザインセンター企画展「多彩なデザイン現場から・デザイン学部特別客員教授展とデザイナーズトーク」が開催されました。



・10月26日、27日／芸大祭とミニオープンキャンパスが行われました。



・11月5日／2013年度「シャチハタ×名古屋芸術大学」産学連携ワークショップ、シャチハタ本社でビジュアルデザインコース学生によるプレゼンテーションが行われました。



・11月12日／2013年度「シャチハタ×名古屋芸術大学」産学連携ワークショップ作品の表彰式が行われました。



・11月16日／公開講座、現代芸術と文化「絵画表現の現在」が行われました。



・11月28日／津島市×名古屋芸術大学、官学協働プロジェクト「つしまヴィジュアル化計画」報告会が行われました。



・11月29日～12月4日／テキスタイルデザインコース卒業生3名による展覧会「内面的刺繍表現」が開催されました。



・12月13日～18日／2013年度後期交換留学生の作品展が行われました。



・12月18日／「ジェームスダイソンアワード2013」で、本学卒業生フレデリック・ファさんの作品が国内最優秀賞に選ばれ、本作品をはじめ国内上位4作品の表彰式が行われました。



・2014年1月11日、12日、18日、19日／デザイン学部レビュー展が行われました。



**【第41回】名古屋芸術大学卒業制作展  
2014年2月25日【火】-3月2日【日】**

愛知県美術館ギャラリー [愛知芸術文化センター8階]  
10:00~18:00 (金曜は20:00, 最終日は17:00まで)  
【美術学部】美術学科(日本画・洋画・美術文化)  
【デザイン学部】デザイン学科

名古屋市民ギャラリー矢田  
9:30~19:00 (最終日は17:00まで)  
【美術学部】美術学科(彫塑・立体造形・ガラス・陶芸・アートクリエイター・版画)  
【デザイン学部】デザイン学科

名古屋芸術大学西キャンパス [アート&デザインセンター]  
10:00~18:00  
【美術学部】美術学科(洋画) 【デザイン学部】デザイン学科

**卒業制作展記念講演会**

**3月2日【日】14:00~16:00**

**【入場無料・要整理券】**

アーススペースA

【愛知芸術文化センター12階】

対談:

宮田亮平 氏 <東京藝術大学学長> ×

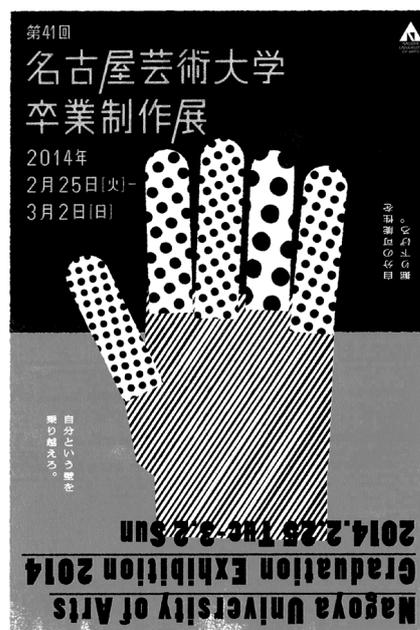
仲居宏二 氏 <愛知女子大学教授>

「明日のアート」

**【第18回】名古屋芸術大学大学院修士制作展  
2014年3月4日【火】-9日【日】**

名古屋市民ギャラリー矢田  
9:30~19:00 (最終日は17:00まで)  
美術研究科・デザイン研究科

●お問い合わせ 名古屋芸術大学 TEL0568-24-0325(代) <http://www.nua.ac.jp/>



※尚、項目ごとのより詳しい内容につきましては、名古屋芸術大学ホームページ、デザイン学部、NUA ACTIVITYREPORT/トピックをご覧ください。

※追記／年度の最後を飾って、学部の卒業制作と大学院の修士制作の展覧会が、各所で開催されます。入学時からの成長の結果であり、明日への通過点でもあります。多くの方々が本展に足を運ばれますことを願っております。

※追記／上記ご案内が、この原稿の印刷・発行予定からすると、展覧会終了後になるかもしれません。ご容赦くださいますよう。機会がございましたらご覧頂いた展覧会の感想や、お気付きの事柄等を次年度に向けての課題の一つになりますので、お聞かせ下さい。

デザイン学部長 教授 落合紀文

# 人間発達学部

## 訃報

初めに悲しいお知らせをしなければなりません。去る10月11日に今年度初めより静養されておられました大島林子准教授(体育学)が、薬石効果なくご逝去になりました。

大島先生は、短期大学時代からリズム体操や幼児体育の専門家として、幼児・初等教育を担う幾多の人材を育ててこられました。また、本学学生をリズム体操世界大会の代表選手に育て上げられる等、学生の課外活動の指導にも熱心に取り組んで来られました。

ようやく学部が四大としての形を整え、将来に向けて羽ばたこうとするときに、その中核を担っていただくべき優れた先生を失いましたことは慚愧に堪えません。先生のご冥福をお祈りしつつ、皆様にお知らせ申し上げます。

## 学部行事

(1)文化創造セミナー／12月14日、本学音楽学部非常勤講師であり評論家でもある上田智美氏を講師にお招きし、「からだところを楽しくゆるめよう一呼吸法and発声法のワークショップ」をテーマに、「身体感覚」を取り戻し内面の生命を賦活する方法を学びました。

冬の朝の体育館の冷気の中で、初めは少しためらいを見せていた学生たちも、氏の指導の下で次第に身体を動かすことができるようになり、生き生きとエクササイズに取り組むようになっていきました。

昨今では、子どもたちの身体感覚の鈍さが指摘されていますが、学生たちは自らの身体を通して「身体が生き返る」ことの意味を感じ取ったのではないかと思います。

(2)就職活動報告会／11月22日および1月16日、の2回、25年度の就職活動種別報告会を行いました。

公立小学校、私立幼稚園、私立保育園、福祉施設、公務員、企業の7つの部会に分かれて、既に内定を得ている4年生から、その就職活動の実際を聴きました。主に3年生が対象でしたが、質問も活発になされ、話す側、聴く側双方の熱心さが印象に残りました。今年度も、むろん保育士や教員志望の学生が多いのですが、一般企業に関心を持つ者が少しずつ増加しているように思います。

(3)卒論・修論発表会／今年度も2月3日に卒論発表会を行いました。

3年次のゼミⅢから発展させた各自の問題意識を「卒論」という形にまとめ上げたのですが、完成度には少しバラツキがあったように思います。また、ゼミ毎の発表が同時進行で進みまされたので、複数のゼミの発表を聴くには少なく不都合でした。これらの諸点の改善はこれからの課題であるように思います。

大学院の修論発表会は2月13日に行いました。大学院関係者以外にも名誉教授の金田利子先生、音楽学部教養部会の茶谷薫先生、非常勤の高井芳江先生、新年度入学予定の三氏等々のご来聴もあり、活発な討論が展開されました。

(4)春を呼ぶ芸術フェスティバル／3月1日には、来年度入学予定者にも参加を呼びかけて、標記のフェスティバルを開催しました。

このフェスティバルは、学生たちに、自発性や自らの資質に対する自信を高めてもらうために22年度から実施してきたものです。

本年度は、実行委員方式で3年生が中心となり準備・運営にあたりましたが、学生の多くは将来保育士や幼児・初等教育教員になっていきます。こうした機会を通して自分たちの資質・能力を再確認し、今後の大学生生活の充実に努めて欲しいと思います。

## 学生の就職状況

2月20日の時点での進路が内定した学生は77人(74.0%)です。その内訳は、公立小学校6名(正規採用3名、常勤講師3名)、保育園31名(公立13名、私立18名)、幼稚園19名(私立19名)、施設職員2名、公務員1名、一般企業16名、進学2名です。昨年同様少なく就職内定率が低いのですが、例年発表の遅い公立小学校講師や保育園等の採用を待っている者がいますので、最終的には大多数の者が内定を得るものと思われれます。

## 子どもコミュニティセンターの発足

「子育て支援センター」の設立は短期大学時代からの長年の夢でありましたが、11号館1階にプレールーム等が整備され、今年度から「子どもコミュニティセンター」が立ち上がりました。ここでは、地域社会に子どもを中心としたコミュニティを作っていくことの構想の下に、「にこにこワークショップ」(子育てワークショップ)や地域のお年寄りとの交流等の活動が活発に行われてきました。

そしてこのセンターは平成26年度からは正式に全学のセンターとして位置づけられることになりました。初代センター長には古川美枝子教授の就任が決まりました。

## 教員の異動

本年度末をもって、野原由利子特任教授(幼児教育学)、加藤晃講師(教育実習指導)が定年により退職されます。野原先生は前身の短期大学の時代から、また加藤晃先生は本学部の創設以来、その発展に尽くされ、学生からの信頼も厚い先生でしたので、ご定年とはいえ極めて残念なことです。

また、私佐藤勝利(臨床心理学)は3カ年の間学部長を務めさせていただきましたが、同様に年度末をもって定年退職をいたします。

なお、新年度には星野英五教授が新学部長に就任され、佐藤の後任には、現段階ではお名前を記す訳にはいきませんが、発達臨床学を含む発達心理学系の男性教授が着任される予定です。野原教授ならびに故大島准教授の後任については未定の状況ですが、速やかに補充されることを願っております。

人間発達学部は「草創期」の7年を経ました。新年度からは「発展期」と呼ぶにふさわしい歩が始まることを期待したいと思います。

人間発達学部長 教授 佐藤勝利

# 学生部報告

## クラブ活動で充実した学生生活 本学のクラブ・サークルについて

本学は、学生数の規模としては小規模ですが、しかし学生の自主的活動はなかなか盛んです。

本学のクラブとサークルはキャンパスごとにあり、東キャンパスには23クラブ4同好会があり、うち、クラブは運動系8、音楽系8、文化系7、同好会は運動系3、音楽系1、あります。また、西キャンパスには27クラブ、うち運動系13、文化系12(同好会は無し)があります。これまで学生たちの自由意思の下にこれだけのクラブとサークルが結成されて学生自治会によって運営されてきました。

クラブ・サークル活動は、大学での4年間を、仲間と友情を分かち合いながらより充実したものとします。時にはその後の人生をも変えてしまうほどの大きな影響を及ぼすこともあります。クラブ・サークル活動は、掛け替えのない大切なものを与えてくれる貴重な存在になるのです。より多くの学生に参加していただきたいと思っています。

大学は、このような貴重なクラブ・サークル活動をしっかり支援していきたいと思ひます。保護者の皆様にもより一層のご理解とご支援をお願いいたします。

今年度の本学のクラブの活躍を一部紹介いたします。

### 〈東キャンパス〉

#### ★ジャンパスウィングオーケストラ

2010年8月14日・15日 第41回ヤマノビッグバンドジャズコンテスト  
ベストランクアップ賞受賞

#### ★リズム体操部

2012年6月26日 第8回全日本学生ラート競技選手権大会  
自由演技の部

男子斜転 第3位入賞

2013年3月10日 第44回健康のための体操発表会  
元気はつらつ賞

2013年9月1日 第9回全日本学生ラート競技選手権大会  
自由演技の部

男子斜転 第6位及び第7位(2名)入賞

#### ★ミュージックボランティア

2013年1月31日 平成24年度一般財団法人学生サポートセンター  
「学生ボランティア助成事業」助成金10万円交付

#### ★自由工房

2014年1月30日 平成25年度一般財団法人学生サポートセンター  
「学生ボランティア助成事業」助成金10万円交付

### 〈西キャンパス〉

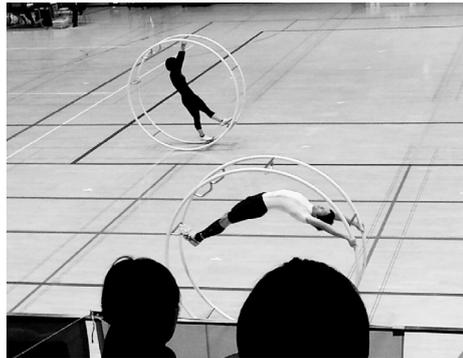
#### ★着付け部

交換留学生に対する着付け指導、着物の写真撮影などの交流活動

#### ★ゴンススキー部

2014年2月5日～28日 蓼原長期合宿 SAJスキー検定合格者 1級4名、2級2名

2014年3月1日～7日 第41回全国岩岳学生スキー大会出場 7名(男子3名、女子4名)



学生部長 教授 菅嶋康浩

# 皆さん受賞おめでとうございます!

2013年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。本人または担当教員を通じて報告のあったものだけをまとめています。

## 音楽学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
2013年						
4月28日	第6回岐阜国際音楽祭 コンクール	岐阜国際音楽祭 実行委員会	管楽器部門 大学・一般の部 文化人特別賞	フルート	3年生	武田 璃穂
			打楽器部門 大学・一般の部 1位 審査員特別賞	打楽器	37期卒業生	川村 法子
4月29日			管楽器部門 大学・一般の部 入選	フルート	4年生	矢野 湧人
			コンチェルト部門 大学・一般の部 1位 岐阜市長賞	ピアノ	4年生	碓 大知
			ピアノ部門 大学・一般の部 1位 岐阜市長賞 審査員特別賞	ピアノ	大学院1年生	戸田 恵
8月	第7回横浜国際 音楽コンクール	横浜国際 音楽コンクール 審査委員会	管楽器部門 大学の部 1位	フルート	3年生	林 里紗
			弦楽器部門 大学の部 審査員特別賞	チェロ	3年生	城間 拓也
			管楽器部門 大学の部 2位	クラリネット	4年生	高田 翔梧
			ピアノ部門 一般の部 第2位	ピアノ	大学院修了生	直江 慶子
	管楽器部門 一般の部 4位	クラリネット	40期卒業生	田中 沙紀		
8月10日 ～18日	第16回長江杯 国際音楽コンクール	中国音楽理事会	管楽器部門 一般の部 第4位	クラリネット	大学院1年生	浅井 美帆
			管楽器部門 一般の部 第6位	クラリネット	40期卒業生	田中 沙紀
8月23日 ～25日	第16回日本フルート コンヴェンション2013 コンクール	第16回日本フルート コンヴェンション2013 コンクール実行委員会 日本フルート協会	アンサンブル部門 銀賞	フルート	4年生	佐藤 千春
					4年生	新野 智子
9月23日	第5回各務原音楽コンクール	各務原市役所 観光文化課	最優秀賞	ピアノ	36期卒業生	荒谷(旧 服部)あさみ
10月5日	第2回名古屋 音楽コンクール	国際芸術連盟	管楽器部門 現代音楽特別賞 第2位(1位なし)	クラリネット	39期卒業生	松本 有可
			管楽器部門 入選(1位なし)	ユーフォニウム	4年生	川出 真由
10月5日 ～14日	第14回大阪国際 音楽コンクール	大阪国際 音楽振興会	声楽部門[Age-U] 歌曲コース 入選	声楽	3年生	堀江 綾乃
				声楽	2年生	山路真里奈
			声楽部門[Age-U] オペラコース 入選	声楽	4年生	川井亜理沙
				声楽	1年生	鈴木 良実
			木管楽器部門[Age-U] 入選	クラリネット	4年生	原田 麻衣
				クラリネット	3年生	早坂康二郎
				クラリネット	3年生	丹羽 夏望
				クラリネット	大学院1年生	浅井 美帆
			木管楽器部門[Age-G] 入選	バスクラリネット	2年生	岩倉 彩乃
				フルート	37期卒業生	蟹江 友理
				クラリネット	40期卒業生	田中 沙紀
			金管楽器部門[Age-G] 入選	ホルン	40期卒業生	吉松 隼
			アーリーミュージック部門 入選	チェンバロ	17期卒業生	三輪 雅美
			ピアノ連弾部門 入選	ピアノ	12期卒業生	谷田(旧 堀内)まゆみ
デュオ部門 第3位	フルート	名古屋自由学院 短期大学卒業	土井美和子			
アンサンブル部門 エスポワール賞	ユーフォニウム	36期卒業生	山田 麻由			
	チューバ	36期卒業生	吉沢 香純			
	ピアノ	36期卒業生	高畑 早希			
10月12日	第15回日本演奏家 コンクール	日本演奏家協会 代表 河野 元(ピアニスト)	ピアノ部門 一般の部 第2位 名古屋市教育委員会賞	ピアノ	37期卒業生	和田(旧 浅野)敏加
10月25日			ピアノ部門 大学の部 3位 名古屋市教育委員会賞	ピアノ	4年生	碓 大知
10月28日 ～11月3日	第10回フランス シャトゥー 国際ピアノコンクール	フランス	第2位 日仏友好賞(武満音楽賞)	ピアノ	大学院1年生	戸田 恵
12月3日	第25回 日本クラシック 音楽コンクール	一般社団法人 日本クラシック音楽協会	ピアノ部門 一般女子の部 第5位	ピアノ	40期卒業生	鈴木 杏奈
12月5日	第1回山田貞夫音楽賞	公益財団法人 山田貞夫音楽財団	ピアノ部門 特選	ピアノ	36期卒業生 大学院修了生	水野 佐紀
12月16日	第23回日本クラシック 音楽コンクール 全国大会	一般社団法人 日本クラシック音楽 協会	声楽部門 一般女子の部 第3位	声楽	大学院1年生	太田 麻華
12月20日			ピアノ部門 一般男子の部 第1位 グランプリ	ピアノ	40期卒業生、 研究生	秀平 雄二
12月22日	第3回オーディション大賞 受賞記念コンサート	NPO法人 con briOクオリア 音楽フェスティバル実行委員会	第3回オーディション大賞	ピアノ	大学院1年生	戸田 恵
2014年						
1月11日 ～13日	第19回KOBE国際 音楽コンクール本選	KOBE国際音楽 コンクール実行委員会	木管 C部門(大学生・一般)奨励賞	クラリネット	40期卒業生	田中 沙紀

## 美術学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2013年						
2月5日～3月2日	選抜展「PRIZM」	MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w	ヴォイス賞	4年生	洋画2	奥村 岳史
4月16日～21日	2013中部新制作絵画展	中部新制作 中日新聞社 東海テレビ放送	5R賞	大学院美術研究科 同時代表現研究〈洋画〉2年	洋画	山口 蒼平
5月18日～6月9日	トーキョーワンダーウォール 2013	東京都、公益財団法人 東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト	平面部門入選	2年生	洋画2	神谷 桑島
				33期卒業生、大学院修了生	同時代表現研究(洋画)	森田 佳奈
				38期卒業生	洋画	中尾慶一郎
6月2日	豊田市の文化表彰	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市文化新人賞	大学院1年生	絵画研究(日本画)	石川 裕梨
			豊田市文化新人賞	31期卒業生	日本画	梅村 愛
			豊田市文化奨励賞	24期卒業生	日本画	吉田 千恵
6月26日～30日	第63回中日書道展	公益社団法人 中部日本書道会	準特選	2年生	洋画2	飯田 美穂
8月10日～9月16日	あいちトリエンナーレ2013	あいちトリエンナーレ2013 実行委員会	「現代美術展企画コンペ」の展示プランに採用	39期卒業生	洋画	水野 里奈
				教員	アートクリエイター	松藤 孝一
10月19日	第3回Dアートビエンナーレ	公益財団法人 堀科学芸術振興財団	入選	4年生	洋画2	小野功太郎
			入選	4年生	洋画2	近藤 夕琴
			入選・佳作賞	33期卒業生、大学院修了生	同時代表現研究(洋画)	亀井 梓
10月23日	第54回西尾市美術展	西尾文化協会	西尾市長賞	3年生	アートクリエイター、陶芸	酒井 智也
11月23日	第31回毎日新聞 富士山学生書写書道展	同展運営委員会、毎日新聞社	毎日新聞 静岡支局賞	2年生	洋画2	飯田 美穂
			第32回展特別賞	40期卒業生、研究生	アートクリエイター	本間恵里加
11月6日	「翔け！二十歳の記憶展」	CBCラジオ	グランプリ	4年生	日本画	大岡 優美
			準グランプリ	大学院2年生	造形研究科 工芸制作専攻	王 永好
			CBC賞	大学院2年生	絵画研究科 洋画専攻	工藤 千紘
2014年						
2月1日	第45回日展	公益社団法人 日展、中日新聞社	特選	22期卒業生	日本画	林 真子
			入選	4期卒業生	日本画	木村 友彦
				18期卒業生	日本画	服部 泰一
				20期卒業生	日本画	菅原 史子
				21期卒業生	日本画	谷野 剛
				22期卒業生	日本画	鈴木 淳子
				22期卒業生	日本画	福岡 正臣
				25期卒業生	日本画	宮原 剛
				27期卒業生	日本画	野澤 朋恵
				30期卒業生	日本画	水野 寛奈
				33期卒業生	日本画	福本 百恵
				大学院2年生	絵画研究(日本画)	安藤 由佳
				大学院2年生	絵画研究(日本画)	永瀬あゆみ
				大学院1年生	絵画研究(日本画)	石川 裕梨
				4年生	日本画	石川 晴菜
4年生	日本画	西川詠美子				
4年生	日本画	深見 早苗				
入選、中日賞	40期卒業生、大学院修了生、研修生	彫刻	志満津華子			
2月1日～3月2日	トーキョーワンダーシード展	公益財団法人 東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト	入選	35期卒業生	洋画2	西出 真美
				4年生	洋画2	福島 紀子
				4年生	洋画2	濱口 綾乃
				38期卒業生、大学院修了生	同時代表現研究(洋画)	濱野 豊
				40期卒業生、大学院修了生	同時代表現研究(洋画)	鷲野 友香
				34期卒業生、大学院修了生	同時代表現研究(洋画)	鈴木 浩之

## デザイン学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
<b>2012年</b>						
7月	第27回公募2012日本ジュエリーアート展	公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会	入選	4年生(当時)	メタル&ジュエリー	川崎 和美 ※1
12月16日	第1回献血推進啓発ポスターデザインコンペティション	日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター	最優秀賞	3年生(当時)	ヴィジュアル	高田 若葉 ※1
<b>2013年</b>						
5月5日	Blank' New	株式会社P I F	優勝	【「 」(クウハク)メンバー】		
				3年生	メディア	岡崎 友恵
				3年生	メディア	山口 真奈
				3年生	メディア コミュニケーション	今井龍太郎
				3年生	テキスタイル	寺島 佑紀
				3年生	テキスタイル	田畑 知著
				3年生	テキスタイル	小島 日和
				2年生	テキスタイル	熊井 優香
5月22日 ~6月16日	ジェイアール名古屋 タカシマヤ デザインコンペ	ジェイアール名古屋 タカシマヤ	入選	3年生	メタル& ジュエリー	森 美月
				3年生	メタル& ジュエリー	木村 文香
				2年生	テキスタイル	永井 見奈
				3年生	テキスタイル	寺島 佑紀
				3年生	テキスタイル	田畑 知著
				3年生	テキスタイル	小出 花菜
6月10日 ~10月27日	あいちトリエンナーレ 2013公式グッズ コンペティション	あいちトリエンナーレ 実行委員会	最優秀賞受賞 制作、商品化	3年生	テキスタイル	小川 真実
				3年生	テキスタイル	小野 礼加
				3年生	テキスタイル	市川 楓
				4年生	テキスタイル	小島 由莉
				4年生	テキスタイル	土井 綾乃
6月26日 ~30日	第63回中日書道展	公益社団法人中部日本書道会	準特選	1年生	—	宇佐見友里
8月7日 ~18日	第14回日本・フランス 現代美術世界展	J I A S 日本国際美術家協会	入選	大学院1年生	メタル& ジュエリー	川崎 和美
10月19日	第3回Dアートビエンナーレ	公益財団法人 堀科学芸術振興財団	入選・佳作賞	38期卒業生、大学院修了生	メタル& ジュエリー 大学院デザイン研究科 デザイン専攻	亀井 梓
11月10日	第4回ポスターグランプリ	愛知県印刷工業組合、 愛知県印刷協同組合、 岐阜県印刷工業組合、 三重県印刷工業組合	岐阜県知事賞	3年生	ヴィジュアル	溝口 美香
			三重県知事賞	3年生	ヴィジュアル	松尾 郁香
11月23日	第31回毎日新聞 富士山学生書写書道展	同展運営委員会、毎日新聞社	毎日新聞 静岡支局賞	1年生	—	松田 理佳
			県文化協会会長賞	3年生	メタル& ジュエリー	山川 千明
12月7日	アイリス生活用品 デザインコンクール	アイリスオーヤマ株式会社	学生奨励賞	3年生	インダストリアル	吉田 和真
12月18日	ジェームズ・ダイソン アワード2013	ジェームズ・ダイソン財団	国内最優秀賞	卒業生	インダストリアル	Phua Wei Qiang Frederick
<b>2014年</b>						
1月25日	第17回きものデザイン コンクール	全国染織連合会	入選	3年生	テキスタイル	小川 真実
			銀賞	2年生	テキスタイル	山下 真実
2月12日	ジャパン・テキスタイル・ コンテスト2013	公益財団法人一宮地場産業 ファッショ ンデザインセンター	奨励賞	3年生	テキスタイル	小川 真実
			奨励賞	3年生	テキスタイル	才川 清香
2月15日	第3回コッカプリント テキスタイル『inspiration』	株式会社コッカ	佳作	2年生	テキスタイル	永井 見奈

※1：2012年度内に報告がありましたが、掲載が漏れていたため本誌の掲載をもって報告します。

## 人間発達学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	氏名
<b>2013年</b>					
6月26日 ~30日	第63回中日書道展	公益社団法人中部日本書道会	準特選	4年生	岡野愛佑香

## 2013年度 東キャンパス芸大祭

2013年度芸大祭は、10月25日(金)から3日間開催されました。今回の芸大祭テーマは、在学生・教職員・芸大祭に来ていただく地域の方々が、賑やかな「お祭り」のように芸大祭を楽しめるようにという想いを込めて、『JAMBOREE』というテーマをつけました。

昨年度、近隣住民への騒音配慮として設置しなくなった屋外ステージを、規模を縮小して設置することにより、昨年とはまた違った賑やかな芸大祭にすることができました。今年度は台風の影響により、1日目2日目は模擬店とふわふわドーム、サブステージの催しが中止になるなどいろいろと予期せぬことがありましたが、2号館に設置されたメインステージでは賑やかに盛り上がっているところを目にしました。3日目は天気もよたくさんの在学生と地域の方々が来てくださり、芸大祭最終日を「お祭り」のように賑やかに終えることができました。サブステージの催しでも、たくさんの方が集まってくれたので昨年よりも賑やかな中庭にすることができました。

実行委員会は人数が少ない中、たくさんの方々のご協力により昨年に負けない芸大祭にすることができました。2014年度の芸大祭は今年度のよかった点を伸ばし、さらに良い芸大祭を作り上げていきたいと思っております。

東キャンパス芸大祭 実行委員長 日野山理香子



## 2013年度 西キャンパス芸大祭



2013年度の西キャンパスの芸大祭は10/26(土)、27(日)に開催されました。今年度の芸祭のテーマは「エコーズ」でした。エコーとは音の反響や、考えや行動に対する共感や反応という意味の単語です。音が響いて広がるように、この芸大祭の楽しさがたくさんの人に届くようにとこのテーマに決めました。

26日には実行委員主催のイベントであるパレードや宝くじの当選発表やミスコンテストが行われ、どれも多くの観客で賑わい大盛況でした。27日に行われた外来アーティストイベントでは「愛☆まどんな, ina takayuki, enra」の3組のアーティストをお呼びしました。普段交わることの無い様々なジャンルのコラボレーションによって、ここでしか見られないアートイベントを1から作り上げました。西キャンパス芸大祭の大きな特徴であるたくさんさんの模擬店は今年さらに数を増やし、なんと約120店舗。個性豊かなお店がキャンパス内を埋め尽くさんとばかりに並ぶ光景は壮観でした。

今年度の芸大祭は直前に台風が2つも接近し、不安な日が続きました。しかしいざ当日になってみれば清々しいばかりの日本晴れ。先輩から教わった「芸大祭に雨は降らない」という言葉は本当でした。例年と比べてもたくさんの方々にご来場いただき大なる盛り上がりを見せた2日間でした。今年は久しぶりの土日開催にして頂けたことや、その他にもシャトルバスの運行や当日の運営スタッフの補助など例年以上に学校の強い協力のもと開催された芸大祭でした。

後輩達が作る次の芸大祭はどんなものになるのか、私も楽しみです。どうぞご期待下さい！

西キャンパス芸大祭 実行委員長 渡邊要介



# 私 が 就職内定 を もらう まで

## 好きなことを仕事に



音楽学部 演奏学科  
ピアノ選択コース  
4年 種橋ちひろ

私が就職について真剣に考え始めたのは大学3年生になってからです。両親が学校の教員だったこともあり、それまでは自分も教職を取って教員になれたらと思っていました。

そんな私が就職活動をしようと思ったきっかけは、高校時代の先輩やアルバイト先の友達と将来について話をしているうちに私も説明会に足を運んでみようかなという興味本位からでした。手探り状態で企業にエントリーをして説明会へ行き、人事部の方や他大学の就活生と話をするうちに就職活動に新鮮さを感じました。

私は大学生活でたくさんの演奏会に出演させて頂き、卒業後も音楽に携わる仕事に就きたいという想いがありました。社会に出たら辛いことはあると思ったので、それなら好きなことを仕事にしたいという想いが、島村楽

器に就職をしようと思った一番の決め手だと考えます。

また飲食店のアルバイトを通して、お客様に「ありがとう」と言ってもらうことに喜びを感じました。その中でご年配のお客様にはすすんでお箸を持っていくこと、常連のお客様の喫煙の有無、お気に入りの席を覚えておくことなど、付加価値を加えることでお客様の満足度が更に増すことを学びました。島村楽器はイオンモールへの出店が多く、様々な年齢層のお客様と関わることの出来る魅力的な環境だと思いました。

就職活動の面接では、大学生活で培った毎日コツコツと練習を積み重ねる継続力をアピールしました。毎日の学びの中で積み上げた技術と表現を活かし、演奏を追求し続け、深めていく過程を大事にしたことや、舞台に立つことを通して経験と度胸を積んだことを伝えました。

人間関係は上手くいくのか、自分の能力で仕事をこなすことが出来るのかと、4月から新しい生活が始まることに不安はたくさんあります。でも新しい出会いがある、活躍するチャンスがある、と自分らしくポジティブに前向きな姿勢で仕事に臨もうと思います。

(島村楽器株式会社 内定)

## 人一倍の努力を



人間発達学部 子ども発達学科  
4年 坂下真実

私は、保育士になりたいと思い名古屋芸術大学を受験しました。入学して間もないころは、保育職が私立と公立で異なることすら知らなかったため、数年後にまた受験勉強をしなければならなくなると思ってもいませんでした。

私が、公立園の保育士を目指すことを決めたのは大学2年生の時に経験した初めての保育所実習のときです。

自分の考えた活動に子どもたちがとても楽しそうに取り組んでくれている姿を見て、2週間だけではなく1年間を通して子どもたちをもっと知り、様々な季節の良さや日々の感動を味わいながら仕事をしたいと思い、曖昧であった目標が明確なものとなりました。それから少しずつ自分に合うテキストを探したり、様々な市のホームページを見てリサーチしたりするようになりました。

4年生になると、試験まで3ヶ月という状況に焦りを感じ、毎日公民館や図書館に通い、多い時には10時間ほど勉強をしました。それに加えて、保育所でのボランティア活動も行いました。保育所でのボランティアをす

ることで、経験を積むこともでき、さらに目標とする場所に通うことで自分のモチベーションを保つことができたと思います。

7月の後半からはよいよ試験が始まりました。1次試験、2次試験と進んでいけることはもちろん毎回喜びを感じましたが、その反面、もし落ちてしまったら私立の幼稚園や保育園の求人がなくなってしまうのではないかと、という不安と焦りに悩む時期もありました。そんなときには悩みを周りの人たちに聞いてもらったり、自分の努力を振り返ってみたりしながら受かりたいという強い気持ちを持って乗り切ることができました。

私は、今まで勉強というものを避けて続けてきましたが、4年生の4月からの約3ヶ月間は人生で一番勉強したと思います。4月からの生活に不安はありますが、努力して掴んだ職業に就いて働けることはとても楽しみです。先生という職業はたくさんの人と関わるので大変なこともあると思いますが、その分大きなやりがいがあると思います。保育士になるという目標を叶えた今、子どもたちが毎日保育園に通いたくなるようなクラスを作ることが私の次の目標です。毎日支えてくれた家族や友人、いつも親身になって相談に乗ってくれた大学の先生方への感謝の気持ちを忘れずに、保育士という職業に誇りを持って一生懸命頑張っていきたいです。

(公務員(安城市)保育士 内定)

## 美術を生かせる仕事



美術学部 美術学科  
アートクリエイターコース  
4年 鈴木愛実

私の在籍しているアートクリエイターコースでは、枠にとられない様々なことを勉強しています。絵画、彫刻、版画、デザインなど幅広く勉強していくなかで、自分が将来何をしたいか分からなくなってしまい就職活動になかなか踏み切れずにいました。そんな中、漠然と美術を生かせる仕事に就けたらいいなと考えていました。

私が就職活動に取り組むきっかけとなったのは、教員免許を取得する過程にあった介護等体験と、大学内でお菓子の販売をしている社会福祉法人さんのお手伝いをさせていただいたことです。福祉と美術は一見かけ離れた世界のように感じますが、デッサンでモチーフを見る時に培った『心の目で感じ取る力』は、福祉施設利用者さんの声なき声に耳を傾ける時に役に立ちます。私は美術を学んだからこそできる支援が福祉にはあるのではないかと考えました。

福祉の業界に的を絞って就職活動をしていく中で一番苦労したのは、志望動機です。どうして芸大に通っているのに福祉を希望するのかと必ず聞かれました。その

時、インターンシップで福祉の施設に行った体験が役に立ちました。また面接の前に申し出て施設での実習をさせていただくなど積極的な姿勢を見せるのも大切だと思いました。私自身未知の業界で不安もありましたが、実習をすることで安心して面接に臨むことができました。

そして第一志望の施設から内定を頂き、今アルバイトとして施設で働いています。日常生活の支援を主にさせて頂いているのですが、利用者さんとのコミュニケーションは言葉だけではありません。絵を描いて伝えることもありますし、ジェスチャーを交えることもあります。そして相手がなにを伝えたいのか心の目で感じ取ります。

最近では干支である馬の絵を描いたり、利用者さんの似顔絵を描いたりして大学で学んだことを生かしています。また、季節行事の装飾や、施設のパンフレット作りを依頼されるなど、自分の得意分野を生かせる機会を頂きとてもわくわくしています。

就職活動で学んだことは、積極的に行動する事の大切さです。自分の知らない世界にも、自分の力を生かせる仕事があるかもしれません。自ら行動をおこし、世界を切り開いていくのです。これから困難な事があるかもしれませんが前向きに考え、社会に貢献していきたいと思えます。

(社会福祉法人ときわ会 内定)

## 社会人になるという自覚



デザイン学部 デザイン学科  
スペースデザインコース  
4年 杉下陽輝

私は幼い頃からものを作ることが好きで、将来は何かものを作る仕事をしているだろうとずっと思っていました。

その延長で芸大に入ったわけでしたが、1、2年生の頃はろくに課題もせずに遊んでばかりいました。将来に対して不安はなく、なんとかなるだろうと考えていました。

ところが学生生活も中盤に差し掛かった2回目の春休み頃から、それまでは全くイメージすることのできなかった、自分が社会人になるということがだんだん身近なことに感じてきました。親の支えがあって大学へ通わせてもらっているのに、このまま適当に過ごしていたら親不孝者になると思い、3年生からは遅れを取り戻すべく真剣に課題に取り組みました。ガイダンスにも出席して、紹介して頂いたインターンシップにも行きました。

12月になり本格的に就職活動が始まると、気になる会社があれば履歴書を提出して、説明会にも参加しました。中には書類選考の時点で落とされてしまうこともありましたが、就活の実態を少しでも知ることができ、良い経験値になっていることが実感できたので前向きに捉え、決して足を止めることはしませんでした。

そして、その中の一社がいずれ私が内定を頂くことになるディスプレイ業の企業でした。以前からその会社のことは知っていて、打ち合わせから引き渡しまでの一貫された業務方針に興味があり、特に入りたい会社のひとつでした。

その会社の面接では3年時に制作した課題をプレゼンテーションして、質疑応答では思ったことをそのまま話しました。他にも一般教養、デッサン、CAD等、計3回の試験を通り、4月に内定を頂くことができました。この結果は前述の春休みの危機感とその後の行動が伴ったからだと思えます。

最後に様々な面で支えてくださった先生方、並びに事務職員方、友人、家族に感謝の意を表したいと思います。

(株式会社スペース 内定)

## 親の想い

### 多くの皆さんに見守られて

音楽学部 演奏学科 4年  
父 富田知彦

娘から「芸術大学に進学する」と聞いた時には面喰いました。確かに小さな頃から楽器演奏をやっていましたので、それはそれとして趣味としていくのだと思っていたからです。将来就職はどうするのかとか、本当に続けていくことができるのかとか、心配ばかりが頭をよぎりました。

しかし、今、4年間経ってみると、しっかりと真剣に演奏技術の習得に励み、無事卒業を迎えることができました。また、教育実習では、他の学部の方と相談をして授業の進め方などを研究して一緒に乗り切りました。さらに演奏活動においては、みんなに自主的に声を掛け合って仲間を集めてコンサートを行ったり、たいへん勉

強になったとのこと。これだけ一つのことを打ち込む気概があれば、今後、どんな困難があっても乗り越えられるのではないかと思います。また、大学生になったのだから、自分のことは自分でと、先輩の後を受けて、音楽教室の先生も引き継ぐなど、本当に「成長したなあ」と感慨深い思いで見守っております。

これから社会に出るにせよ、この道を究めるにせよ、やはり、一つの道に打ち込んできた者の強さといったことが我が子ながら感じさせられます。やはり、名芸大の自由な校風によるところが大きかったのではないかと感謝の念に堪えません。私個人も後援会のお手伝いをさせていただき、多くの方々と出会い、後援会活動において、非常にお世話になるとともに、大変勉強になりました。名芸大に、また、後援会の皆さんに、娘に心から感謝の気持ちでいっぱいです。

### 家族は力強い応援団

美術学部 美術学科 ガラスコース 4年  
母 飯田康子

私の最終学歴は「名古屋自由学院短期大学 児童教育科」卒業です。4年前の入学式の日、自分の出身母体の学校へ母として何十年か振りで見学、とてもワクワクして嬉しかったことを思い出します。

私の息子は小さいころから特に好きだったのが物を作ることでした。大学を決める時も好きなことならという理由から賛成して本人が学校を決めてきました。入ってからも彫刻からガラス科に変わり楽しく通っていました。いざ就活となり、自分が勉強しているガラスを活かした就職先は難しいようでした。就活という現実と理想と食い違い、その葛藤の中で子供なりに真夏の中、汗だくで就活をしていました。大学によっては、入るときに人間発達学部のように取れる資格や就職先がある程度決

まる学部もありますが、美術科や音楽科だと好きなことの延長に就職の扉が開いているとはいかないようで、理想と現実とのほざまで悩んでいました。芸大という大学の特徴上、どんな仕事についてどんな目標をもっていかを常に考える環境にいないようでも、本人もそのモチベーションを持ち続けられないようでした。

結局、4年の間に自分の目標や就職は見つけられなくて、あと2年の間に決めるという約束で院に行くことになりました。2年を大切に使うって意義のある2年にしてほしいです。

親は常に子供の一番の応援団です。自分の好きなことを突き詰めていくことと仕事をするとはかみ合わないこともあります。それでも仕事をする、自分の役割を果たしていくことは生きていくうえで大切なことではないかと思います。人生の目標や人生設計を真摯に考え向き合ってくれることを信じています。

## 子の想い

### 大学生活を半分終えて

音楽学部 演奏学科 電子オルガンコース  
2年 望月 茜

大学生活が半分終わりました。この二年間は、長いようで短かったように感じます。入学前に思い描いていた大学生活とは違い、大学で専門的に音楽を学ぶということで、「やりたかったこと」が、「やらなければならないこと」に変わることも多く「音楽」に向き合う姿勢が変わったと思います。

入学してすぐに、音楽大学に入学したと実感したことは、誰かが弾いたワンフレーズを聞いて、そこにいた何人かで突然セッションが始まったことです。電子オルガンは、基本的に個人で演奏することが多いので、電子オルガンがたくさんあり、いつでもセッションやアンサンブルができる名芸の設備がとても魅力的だと感じました。

年一回行われる名芸の電子オルガンコースの一大イベントとも言われる“earth echo”にも二年間出場させていた

だくことができ、本当にいい経験ができたと思っています。中でも昨年のearth echoでは、入学以来憧れていた同コース四年生の先輩と、同大学四年のドラム専攻の先輩と一緒にステージに立たせていただくことができ、たくさんの刺激を受けることができたと思います。また昨年の芸大祭では、ジャズポップスコースの友達とフュージョンバンドを組み、演奏することができました。いろいろな楽器を専門

的に勉強している人たちが集まる名芸ならではの“音楽”の楽しみ方だとも思うので、これからも他コースの人と共演できる機会があるときは、挑戦していきたいと思っています。

私生活では、この冬に成人式を終えました。大人としての責任感や自覚を持ち、常識のある大人になりたいです。アルバイトも忙しいですが、あくまで学生なのでアルバイトが本業にならないように両立してがんばりたいです。

## 自分の夢に向って

音楽学部 音楽文化創造学科  
2年 安藤夢乃

早いもので、この大学に入学して二年経ちました。運動が苦手だった私は、小さいころより絵を書く事が好きで、よく広告の裏に色エンピツやクレヨン等でアニメのキャラクターや家族の顔を書いたり又テレビの音に合わせて身体を動かして踊ったりして遊んでいました。

小学校1年生の時は、絵画コンクールで賞もらったのをキッカケに、近くの絵画教室に2年間通っていました。低学年では、美術的な方面が好きで頑張り、高学年では金管クラブに入り中学で吹奏楽部と音楽に興味を持ち始め将来は、音楽に携わる仕事に就きたいと思う様になり、大学進学するなら芸術大学へと決めました。

晴れて2012年4月に名古屋芸大への入学が決まりこ

れで自分の夢に向って勉強ができるとワクワクしながら大学のキャンパス生活を送ってきましたが、現実はその甘くはなく、触った事もないピアノに初挑戦する為に、ピアノを習いに教室へ通ったり、あまり聞かなかったクラシックやジャズといった今までの生活の中でありえないぐらい勉強をしました。しかし気が付くと、自分でもびっくりするぐらい幅広く興味をもち始め楽しくなってきた自分がいるのにうれしくて、今後新しい目標を立てて一步一步自分の夢へ向って行けるように大学生活を楽しみながら送って行けたらと思っています。

そして、将来コンサートやミュージカルといった裏方の音響に携わる仕事に就けるよう音楽への知識や技術を学び、自分がこの大学を選んだ事に間違いなかったと思えるよう卒業まで残り二年ですが、自分なりに頑張っていくつもりです。

## 大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
成績について 証明書発行について	教務課		
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
教員免許・学芸員資格について	教職センター(実習指導室)		
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)		0568-24-0359 (直通)
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター		西キャンパス 0568-24-0325 (代表)
後援会について	事務局(事務部長)		東キャンパス 0568-24-0315 (代表)

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

## 後援会補助公開講座実施報告

美術学部

三日間限定FMラジオ放送  
『ア"ーッ！ラジオ』  
2013活動

この活動の目的は、学内の教員スタッフやゲストスタッフとの交流の他に、低学年次から、学内外のワークショップやボランティアに積極的に参加することで、個人活動はもとより 集団で共に協働することに大きな意義と価値を求めるものです。この活動では、チームワーク力やボランティア精神を養うほかにも、物事に対しての計画性や順応性、更には柔軟な思考や責任感や皆で協力する喜び等、多くのことを実践的に学びます。また、プロのアーティストや各分野の文化人や芸術家や学芸員、その他にも異分野の様々な職種の方々などを順次、番組に招き、社会に向けて発信することに務めています。

学生の内から多くの出会いを体験することが「プロフェッショナルとは何か?」「美術と社会」「社会とは?」などを深く学ぶことにもなり、社会へ出た後も、自らが求める生き方に役立つための一因となることでしょう。

この活動の目指す教育効果としては、

- 参加することで、以降も社会で活躍している人々と触れ合うことに繋がり、自然と社会性と表現能力が身に付きます。
- 1年次の早い時期から学ぶべきことが何かを識別できる能力を養います。
- 在学中から社会や大人と接することで更に多くの知識や知恵が身に付きます。
- 洋画(絵画・平面)に限らずメディアも扱い、マルチな力をつけて自らを客観視する眼を養います。



今回の2013年度ア"ーッ！ラジオ活動は、2013年8月から開催された愛知県発のアートイベント「あいちトリエンナーレ2013」を応援することを目的に、2013年6月頃から「仮設」一構想領域研究室を設け、学生室長をリーダーに、洋画コースの低学年中心にラジオ番組を立案して始動しました。

本学A&Dセンター中階に設置した仮設スタジオで催す三日間限定のFMラジオ放送「ア"ーッ！ラジオ」活動があいちトリエンナーレ2013の会期中頃に当たるので、本番ではトリエンナーレ2013総合監督の五十嵐太郎氏(東北大学教授一建築)と事務局の拝戸雅彦氏(愛知県県民生活部文化芸術課芸術祭推進室主任主査)をメインゲストに招いて、1時間のラジオ番組内で、学生がゲスト二人にインタビューした内容を電波やUstreamで学内や世界に発信しました。他にもトリエンナーレにまつわるラジオ生番組や収録番組などを作り、トリエンナーレ関連ニュースなどを三日かけて多くの番組を世に送りました。

その中の一つの番組では、芸術院会員の神戸峰男氏(名古屋芸術大学教授一彫刻家)に学生室長がインタビューで挑んだことが、ラジオ活動の歴史に残るほど面白くて秀逸な番組内容となりました。

また、佐久間要さんを専属デザイナーに、書道家・横山豊蘭氏と「オカザえもん」の生みの親である斉と公平太氏共作の五周年記念限定オリジナルグッズ(Tシャツ)の売れ行きがとて好調で、外部の方々の評判にもなったほどです。

このラジオ活動が外部者にも認知され始めています。また、この活動を機に、名古屋市内に放送センターやそれに伴うグループ活動も生まれ、周りの多くの人々に影響を与えています。

この本学西キャンパスで始めたア"ーッ！ラジオが本格的な事業活動となってまだ5年目ですが、これからも実績を積みつつ、放送の中身充実を目指して活動するつもりです。

今後ともア"ーッ！ラジオ活動をご支援下さいますようお願い致します。

洋画2コース 教授 大崎正裕

# 後援会補助公開講座実施報告

デザイン学部

## 2013年度アート&デザインセンター企画展 「多彩なデザインの現場から - デザイン学部特別客員教授展」 2013年10月25日～11月2日〈11月1日 デザイナーズトーク〉

デザイン学部では、様々な実践的体験を通じて学生の豊かな人間性や想像力を育む教育の一貫として、毎年、国内外を舞台に様々なデザイン領域で活躍するアーティストやデザイナーを特別客員教授として迎え、デザインプロジェクトや講演会など長期にわたるプログラムを展開しています。2013年度の特別客員教授には、鍛金彫刻家の安藤泉氏、建築家の大西麻貴氏、アニメーション演出・VFXスーパーバイザーの加藤道哉氏、graf代表・クリエイティブディレクターの服部滋樹氏、メディア/デザインプロジェクトのphono/graph、SOU・SOU代表ディレクターの若林剛之氏ら、6名の第一線で活躍する方々が招聘されました。

特別客員教授らが学生と共にどのようなプログラムを展開したのか、その多彩な教育活動の一端を紹介する展示として「多彩なデザインの現場から - デザイン学部特別客員教授展」が、2013年度アート&デザインセンター企画展として開催されました。また、展示に併せて11月1日には西キャンパスB棟大講義室において、デザイナーズトークが開催されました。デザイナーズトークでは、特別客員教授の服部氏と大西氏をスピーカーとして迎え、学生達と行ったプロジェクトの成果や、そのプロセス、また今後の展開について対談が行われました。話題は、デザインリサーチ方法や地域でのデザイン活動に関すること、建築とそこで生まれる体験についてなど広域にわたり、聴講した学生たちにとっても、自ら参加したプログラムをまた別の視点から振り返る貴重な機会となりました。

今回行われた様々なプログラムに参加した学生らにとっては、普段の実技課題から離れ、第一線で活躍するデザイナーからより実践的・

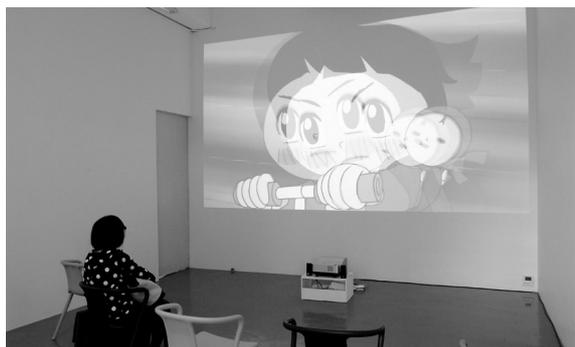


服部滋樹×大西麻貴 デザイナーズトーク

包括的な視点で、直接指導を受ける得難い機会であったのはもちろんのこと、この活動は、本学デザイン学部がデザインの総合力を持って、新たなデザインの側面を開拓しようする潜在力を持つことを確認する意味でも良い影響を与えました。名古屋芸大デザイン学部の特色の一つとして、10の専門コースを有する一方で、それぞれのコースが孤立するのではなく、ゆるやかに連帯していることが挙げられます。それによって、細分化された専門性の内に埋没してしまうのではなく、他分野の動向から絶えず新たな視点や展開の可能性を得ることができるのです。

今回の企画展・デザイナーズトークは、そうしたデザイン学部の特色を十分に活かしたものとなりました。この企画を通じて、本学が持つデザイン教育力の一端を広く紹介できたのではないかと思います。今後もそうした本学部の利点を活かした活動が展開できればと思っています。

デザイン学科 講師 水内智英



## 後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

### 講演テーマ『からだところを楽しくゆるめよう ～呼吸法&発声法のワークショップ～』

講師 上田智美氏

人間発達学部では、2013年12月14日土曜日に11号館3階の講堂にて、舞台芸術評論家でありジャーナリストとして活躍しておられる上田智美氏を講師にお招きして、後期の部の文化創造セミナーを開催した。

演題にワークショップとあるように、学生はまず裸足になり、広い講堂の中で大きな輪を作った。最初に行ったのが、裸足で「ふむ」ワークである。背骨を回したり伸ばしたり、四股を踏んでみたり、普段の生活では意識しないからだに注意をむけながら、ウォーミングアップが始まった。

次に行ったのが、呼吸法のワークだ。自分の背骨と筋肉に意識を集中しながら、息を吐く&吸うの動作を繰り返した。講師の先生の指示に従って、胸に手を当てたり、背中に手を当てたりしながら、呼吸に伴う自分の体の変化を確認していく。立ったり寝転んだり様々な体位を取りながら、いろいろな呼吸を経験した。背中が長く伸びるイメージで呼吸を繰り返すことが、からだを緩めるコツなのだと言われているが、初心者の方々には、頭でわかっても実際にやってみるのは簡単でない。からだをコントロールすることの難しさを知るのであった。

最後に、発声法のトレーニングを行った。将来子どもたちの前に立って仕事をする人間発達学部の学生にとつ



ては、力まない声の出し方を習得することは必要だ。そして自分の想いを、自分のからだに声に乗せて、確実に相手に伝えることができるようになれば、こんなに嬉しいことはない。

受講生にとっては、ワークを進めていく中で、少しずつ自身のからだの緊張を緩め、感覚を研ぎ澄ましながら、普段の生活では意識しない「自分の声とは何か」「自分のからだとは何か」について、気づき発見することができたセミナーとなった。

子ども発達学科 准教授 南 元子

## 2013年度 デザイン学部 「Review」展

第31回目のレビュー展が2014年1月11・12日、18・19日に開催されました。

今年もレビュー展のポスターにヴィジュアルデザインコースが取り組み、3年生の安藤里穂さんのポスターが選ばれました。レビュー展の風景の中にある面白さや明るさを迷路のイメージで表現した楽しいポスターになっています。安藤さんは、自由でのびのびと過ごせる環境で作業できることが名古屋芸術大学の特徴として挙げてくれました。

次年度の一年間は、持ち味のイラストに磨きをかけ、自分に足りないデザイン力を身につけて卒業制作に望みたいと抱負を語っていただきました。



ビジュアルデザインコース3年 安藤里穂さん

また、1月11日にはAO入試、推薦入試の合格者対象の入学前プログラムを実施し、4月から名古屋芸術大学の一員となる高校生がレビュー展を見学してくれました。

最後になりますが、本展にお越しいただきました卒業生、保護者、後援会の方々にお礼を申し上げます。

デザイン学部デザイン学科  
講師 竹内 創

## 2013年度 名古屋芸術大学後援会

## 研修旅行報告

今年度の後援会研修旅行は11月19日、20日。

四国方面への芸術の秋の旅に行ってまいりました。  
総勢30名の大きな団体旅行となりました。

バスを走らせ最初に到着した『渦の道』。大鳴門橋の橋行空間に設置された海の上の遊歩道。潮風に吹かれながら450m先の展望台まで太平洋、瀬戸内海の雄大な景色を観ながら歩いた。4か所の休憩所には畳1枚ぐらいガラス板があり海面まで45m。激しく渦巻く海面を覗き込めた。



次に向かったのは 大塚国際美術館。世界初の陶板名作美術館、古代絵画から世界25か所国190余りの美術館が所蔵する現代絵画までの作品の数々が原寸大で展示されていました。ちょうど開館15周年の期間中『神ごとき



ミケランジェロ』システリーナ礼拝堂の天井画の見事なこと。1000平方メートルのスペースに300近い人体がひしめく大壁画の迫力に圧倒されました。会場スタッフによる説明で天井を見上げる皆様の様子も印象的でした。

お宿は、こんびら麓にある琴参閣。館内のわたり廊下にて、こんびら絵巻が再現されて優雅なタイムスリップを楽しみました。温泉で疲れを癒し宴会では歌で盛り上がり時間と共に絆が深まってまいりました。

翌朝「こんびらさん」の名で親しまれる金毘羅宮御本宮を目指して多数の方が参拝されました。奥社しか買えない〈加美代飴〉も話題になりました。

翌日は倉敷へ。昭和30年から始まった保存運動で今も守られている美観地区。

倉敷の街を散策、美しい町並みに優しさを感じる時間でした。昭和5年設立、西洋美術中心の美術館。ルノワール、モネ、本人から直接買ったという歴史的名作をはじめ世界的名画の宝庫である 大原美術館を見学しました。

本館2階にある レオン・フレデリック「万有は死に帰す されど神の愛は万有をして蘇らしめん」25年間の力作です。驚くことに、この絵の長さに合わせて本館の幅を決め建築されたということです。

まだまだ旅話は尽きませんが、こうして1泊2日の研修旅行が終わりました。

皆様のご協力により無事に帰って来ることができ、大変貴重な体験をいたしました。

最後まで支えていただきました皆様お世話になりました。ありがとうございました。

事業委員長 真野久美子



## 名古屋芸術大学音楽学部 第41回卒業演奏会

2014年2月28日、しらかわホールにて第41回卒業演奏会が行われました。

今年度は2夜連続で行われていたものを1夜にまとめて行うという初の試みでしたが、21名(声楽5名、ピアノ6名、弦管打8名、電子2名)の学生が4年間培った技術の集大成ともいえる演奏を披露しました。どの学生も成績上位者として恥じないとても素晴らしい演奏で、聴きに訪れた観客からは惜しめない拍手が送られています。これからの活躍がとても楽しみに感じた演奏会でした。

演奏委員会委員 准教授 依田嘉明



## 名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第16回修了演奏会

2014年3月6日(木)三井住友海上しらかわホールにて、名古屋芸術大学大学院第16回修了演奏会が行われました。

今年も昨年同様指揮に濱津清仁氏を迎え、コレギウム・アカデミカ(名古屋芸術大学教員を中心に編成されたオーケストラ)との協演を果たしました。

今年度は声楽3名、ピアノ1名、クラリネット1名、作曲1名の計6名が、2年間の研究の成果を演奏また

は作品発表という形で披露しましたが、どの学生も卓越した技術と洗練された音楽性でとても素晴らしい演奏でした。

訪れた観客からは大きな拍手が送られ、何度もカーテンコールに応える姿がとても印象的でした。

なお今回は、名古屋芸術大学後援会からの助成が行われ、充実した演奏会を行えたことを感謝申し上げます。

演奏委員会委員 准教授 依田嘉明



## 名古屋芸術大学美術学部 第41回卒業制作展

今回で41回となる名古屋芸術大学卒業制作展は2月25日(火)から3月2日(日)までの6日間、愛知県美術館ギャラリー(美術学部/日本画・洋画1・洋画2・美術文化コース、デザイン学部/デザイン学科全コース)、名古屋市民ギャラリー矢田(美術学部/彫塑・立体造形・陶芸・ガラス・アートクリエイター・版画コース、デザイン学部/メディアデザイン・メタル&ジュエリー・テキスタイルデザインコース)、名古屋芸術大学西キャンパスアート&デザインセンター(美術学部/洋画2コース、デザイン学部/スペースデザイン・インダストリアルデザインコース)の三会場において作品が展示されました。また、愛知県美術館ギャラリー8階のロビーにて映像作品の上映会が、12階のアートスペースE・Fでは美術文化コース優秀論文発表会も行われました。

毎年恒例となっている三会場のスタンプラリーが今年も実施され、賞品として学生が作った作品がプレゼントされることもあり、大変好評でした。

昨年まで在学生と卒業生から応募コンペ方式によりデザインを行っていましたポスター・チラシのデザインは、今年から卒業生の方に指名コンペ方式にて行うこと

となり、第1回目の今回は昨年カンヌライオンズにて金賞を受賞された白澤真生氏(2005年デザイン学部デザイン学科テキスタイルデザインコース卒業)にデザインして頂きました。名鉄や名古屋市営地下鉄の車内や駅など、多くの方の目にふれるところに掲示した広報物も大変効果的でした。

また今年初めて、卒業制作展初日の2月25日(火)



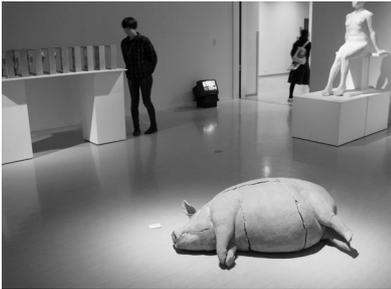
に、愛知県美術館ギャラリーにてオープニングセレモニーを開催しました。美術学部・デザイン学部の両学部長はじめ、学校法人名古屋自由学院理事長や、交流校であり毎年ブライトン賞授与の為に来日いただくブライトン大学の先生方にもご臨席賜り、音楽学部学生の金管六重奏の演奏と共に、華やかな雰囲気で開催を始めることが出来ました。

3月2日(日)には、「明日のアート」と題して、東京藝術大学学長の宮田亮平氏と聖心女子大学教授の仲居宏二氏を招いた卒業制作展記念講演会も開催しました。講演者のお二人には講演会に先立って卒業制作展の全会場

と、本学西キャンパスのアトリエや工房をご覧いただくうえで、日ごろ制作に励む学生たちや一般のご来場者の方々へ、未来へ向けたアートの新たな可能性について語り合っていました。

恒例となっています本学の卒業制作展も、皆様のご理解、ご協力のもと今年も約6000名のご来場者の皆様をお迎えすることができました。無事に閉展できましたことに感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

卒業制作展委員長 教授 和田義行



## 名古屋芸術大学大学院美術研究科 第18回修了制作展

名古屋芸術大学大学院美術研究科は、この度18回目の修了生を送り出すこととなりました。

本研究科は、絵画、造形、同時代表現、美術文化の4領域を備え、広い知識と深い思考に導かれた自己の確立とその表現方法の探求を、教育・研究の目標として掲げています。東日本大震災の後遺症がまだ癒えぬ中、社会のグローバル化と価値観の多様化が急速に進む「今」にあって、本修了生達はこの激動の時代を全身で受け止め、各々が自己の感性を信じ価値を求め研鑽を重ねて参

りました。ここに発表されている作品は、現時点における彼らの集大成としての自己表現であり、芸術家としてのスタートの場ともなるものです。

ここに生まれた若き作家達が、今日の課題を真正面からとらえ、大きく成長してくれるものと信じ、期待しております。

今後も彼らを温かく見守っていただきますとともに、合わせて更なるご支援とご指導をお願い申し上げます。

美術研究科長 教授 神戸峰男

## 名古屋芸術大学大学院デザイン研究科 修了制作展

名古屋芸術大学大学院デザイン研究科は、学士課程でのデザイン教育を踏まえて、より専門的職能に携わる為の知識と技能の修得をめざし、広域なフィールドで次代のデザインをリードできる人を育成することを、目標としています。

人間の生活、その他の生態系を含めた環境全体の将来にわたる持続的な共生の思想：エコロジカル・デザインを、全専攻領域に共通するテーマとして持ち、幅広いデザイン研究カリキュラムを用意しています。

研究領域は、(ヴィジュアルデザイン研究/メディアデザイン研究/ライフスタイルデザイン研究/3Dデザイン研究/クラフトデザイン研究)の5領域(5ユニット)からなり、各ユニットの専門領域研究をベースに、他領域のデザインユニットと共同で研究活動を行うことにより、広角なデザイン研究活動をめざします。

今年度も又、新たな修了生が社会に出ます。一社会人としての始まりです。様々なデザインの現場で、今後とも皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

デザイン研究科長 教授 落合紀文



## 第24回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学講座は今年で24回目を迎え、東西キャンパス合わせて27講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた水彩画、オカリナなどの講座に加え、ホームビデオの作り方、スペイン語、カホンなどの新たな講座を開講し、大好評のうちに終了することができました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においても紙ヒコーキの講座を開講し、30組の親子に受講していただきました。

今後も皆さまの幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めてまいります。皆さまのご参加をお待ちしております。なお2014年度の講座につきましては、6月中旬頃パンフレットが完成する予定です。

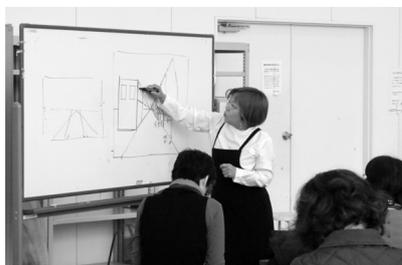
お問い合わせは、本学生涯学習センターまでお願い致します。また名古屋市との連携講座に関することは名古屋市生涯学習推進センターまでお問い合わせください。

### ■お問い合わせ

名古屋芸術大学生涯学習センター  
TEL：0568-24-0359  
名古屋市生涯学習推進センター  
TEL：052-321-1571



▲ラテンのリズムで楽しく演奏『Cajon カホン』



▲ビギナーズチョイス 一素描を楽しむ



▲体験～美しい色彩のリトグラフ講座



▲粘土による造形～テラコッタ～



▲楽しいピンポン

### 2013年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

キャンパス	講座コード	講座名	受講者数
東	M-01	二胡入門	10
	M-02	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル(はじめての方向け)	14
	M-03	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル(経験者向け)	10
	M-04	『楽しい覚えよう、使えるスペイン語、初めてのスペイン語』	5
	M-05	ラテンのリズムで楽しく演奏『Cajon カホン』	12
	M-07	現代歌舞伎講座 —リスナーに“親切に、やさしい”を主眼にした講座です。—	10
	M-08	パソコンを使ってオリジナル作品づくり ～簡単な画像と音編集～思い出の楽しい保存方法	8
	M-09	初心者歓迎！ 楽譜を解説して楽にピアノを弾くコツをお教えます！	11
	H-01	今どきのインターネットとWordでオリジナル年賀状作成	13
	H-02	子育てのあり方を、モンテッソーリ教育からも学んでみる	18
H-03	初級パソコン教室：ワードを使って身近な文章を作ろう	4	
西	B-01	美しい水彩画Ⅳ 一爽秋の林、草花、旬を描く一	31
	B-02	ビギナーズチョイス 一素描を楽しむ一	28
	B-03	カラー銅版画 額装してお部屋の彩に。	6
	B-04	体験～美しい色彩のリトグラフ講座	13
	B-05	木彫を楽しむ PartX V	12
	B-07	粘土による造形～テラコッタ～	11
	B-08	やさしい創作折紙(秘密の折り方を伝授します。)	13
	B-09	ハンゲルへようこそ	14
	B-10	絵を読む(日本近代美術新入門)	7
	D-01	小説家になるための小説の書き方	8
	D-03	楽しいピンポン(卓球)	9
	D-04	見やすいホームビデオの作り方	3
	D-05	織りをたのしむ 一リジット機でマフラーや小物を織ろう一	10
	D-06	鑄造でメダルを創る	4
	D-08	子ども造形と形遊び 「和久洋三が提唱する(和久メソッド)創造共育」(幼児クラス)	4
	D-09	子ども造形と形遊び 「和久洋三が提唱する(和久メソッド)創造共育」(小学生クラス)	9
	合計27講座		

### 2013年度 名古屋市大学連携講座

開催場所	講座名	受講者数
名古屋市 女性会館	親子で作るポケット紙ヒコーキ	30組63

### 2013年度 シリーズ講座

開催場所	講座名	受講者数
名古屋市 女性会館	名古屋で「小さな」雑誌をつくる、ということ(棲編集長として) 一地域でメディアをつくる可能性と困難一	193

## 国際交流レポート 人間発達学部ヨーロッパ教育セミナー

ヨーロッパ教育セミナーは、人間発達学部の国際交流委員会が、子ども発達学科の国際交流事業として企画・立案したものである。従来、本学他学部の国際交流事業は、ヨーロッパを始めとする世界各地の大学と学術協定(姉妹校)を結んだ後に、学生の交換留学を行う形態で実施されてきた。人間発達学部も将来に向けてはそれに倣う形をとりたいと考えている。一方で、学術提携を模索する努力を継続しつつ、学部独自の方向性として、見学・実習形式の研修を行っていく事も、学部教育の特性として必要な方法であると考えている。人間発達学部では、2011年度に続いて、2013年度に第2回目の「ヨーロッパ教育セミナー」を行った。私は2011年度の第1回研修に引率者として帯同したので、研修施設を振り返り感想を述べたい。また、第2回目の研修に帯同された、鈴木先からも資料をお借りして、研修の様子をお知らせする事にする。

イエーナの街は旧東ドイツにあり、宿泊地のエアフルトからバスで約1時間の距離にある。ワルド幼稚園はイエーナの郊外に位置し、豊かな自然環境に囲まれた「森の幼稚園」として申し分のない立地条件を備えている。見学当日は気温も氷点下であり、時折雪がちらつく条件であったが、子どもたちはむしろそれを楽しむかのように山(丘)に登り、自然の中で、伸び伸びと遊んでいた。自然の中に子どもを育む多くのものが内包されている事は承知しているが、改めて、日常生活の中に多くの自然を取り込む事の必要性を痛感させる光景であった。「風邪をひいている子は園に残るのか?」と尋ねたところ、「風邪をひく子はとても少ない。毎日外に出ている効果ですよ」と教えられた。運動と自然環境から受ける様々な刺激が心身を丈夫にしているのであろう。また、「教師の養成カリキュラムは?」と尋ねたところ、「通常の教育・保育学に加えて、生物学や自然に関する講義、生理学や医学的講義、アウトドアに関する講義を受ける」のだと話しておられたのがとても印象的であった。第2回目の研修も同じ場所に行っており、同様の体験をした様である。

フレーベル幼稚園・博物館は、バード・ブランケンブルグに在る。フレーベル幼稚園では、園の各部屋を回り、フレーベル独特の恩物やその使用方法、教育理念などの説明を受けた。実際にこの場所でフレーベルが子どもたちを相手に教育をしていたと考えると、感慨深いものがある。おそらく学生たちも教科書でしか知らなかったフレーベルが、より身近な存在になった事であろう。フレーベルの思想に則り、それを基に現在の様々な教育方法や社会の変化に伴う教育も少し加味した幼児教育を実践しているという。部屋、施設、記述物、遊び道具といった、教育に一番近い環境を知る事で、実際の教育場面を窺い知ることが出来た。フレーベル博物館は、幼稚園から徒歩で5分ほどの距離にある。ここではロクシュタイン館長から直接講義を受ける事ができた。フレーベルの恩物について懇切丁寧な説明を受け、改めてフレーベルの素晴らしさに触発される感じがした。講義を聞いた学生たちの質問はとても真摯であり、その内容からも学生たちの感動が伝わって来るようなものであった。



恩物の説明をするロクシュタイン館長

スイスのバーゼル市を中心としたシュタイナーに関する見学・研修は2日間に亘って実施された。その最初の研修場所であるシュタイナー学校は、バーゼル中央駅から鉄道で約15分の所にあるアッシュで下車するとすぐ目の前に在る。子どもたちと一緒に朝8時前に到着し、昼過ぎまで授業を見学したり、教員の話の聞いたり、全ての施設を見学した。午前中の

授業見学は、各教室に数名(2~3名)の学生が分かれて入室して行われた。担任は、1年生から継続して持ち上がりでクラスを担当し、責任を持ってそのクラス全員の育ちを見守っていくのだという事である。研修2日目は、早朝(7時)から市内を縦横に走るトラムに乗り、アルレスハイムにあるシュタイナー治療教育学校へ向かうところからスタートした。通常では見学する事が困難である学校や施設の内部を見学し、講義を受ける事ができた。ここでは、シュタイナーの考え方に沿った障がい児に対する治療教育が実践されており、とても興味深い研修となった。朝の集会では、全校の子どもと職員が集い、アコースティックな楽器(ピアノやバイオリン)を使って合唱をし、そこから1日がスタートした。ここでも芸術(音楽)の大切さを蔑ろにしない姿勢が貫かれていた。芸術を通した心に届く教育は、障がいを持つ子どもたちに対してとても効果的であり大切な事であるのは言うまでもない。シュタイナー教育の基本的精神である。ゾンネホッフの中に在る障がい児が生活する施設も見学したが、プライバシーを確保し質の高い生活を提供していた。また障がい者のためのグループホームも、一人一人が占める面積の広さも然ることながら、質の高い生活を保障しようとする姿勢は感動的であった。アントロポゾフィー医学病院であるイタ・ヴェークマン・クリニックは、ゾンネホッフから徒歩で約20分の距離にあった。シュタイナーの学校や施設、病院を見学していると、どの建物にも共通する事であるのだが、壁の曲線や独特な色遣い、分厚い木の扉、自然な光の取り入れ口の多さ等につくづく感心してしまう。イタ・ヴェークマン・クリニックも同様に、ここが直にシュタイナーの施設の1部である事を理解させるに十分な色遣いと雰囲気を持っていた。病院内の多くの部門を見学させて頂き、シュタイナーの思想に基づく様々な治療が行われている様子を窺い知ることが出来た貴重な時間であった。中でも音楽療法に関しては実際に専属の担当者に実践を含めた療法の様子を見せてもらう事ができ、実に興味深い体験をさせて頂いた。古いケルトの民族楽器を用いた療法であったり、スイス独特の長いホルンを用いた肺疾患系の治療方法の紹介があったり、興味の尽きない30分であった。おそらく学生も静かで不思議な時間を体験した事であろう。



音楽療法の実演を見学

第1回目の研修では叶わなかったモンテッソーリ幼稚園へは、第2回目の研修で訪れる事が出来た。場所はグラ市にあるフロイス・レーベン幼稚園である。この園では18年前にモンテッソーリ教育を導入し現在96名の子供が通っている。0~3歳児(クリッペ)は2クラス、3~6歳児(混合保育)は3クラスで運営されていた。職員は保育士14名とチーフが1名である。子どもの自立性、自主性を大切にしており訓練的な内容は行わず、調和のとれた1日の時間を過ごすことで、子どもたちが楽しく通園出来るような園を目指しているとの事であった。またこの園では、言語教育に力を注いでおり、言語教育改善のためのプロジェクトを継続的に行っているとの事であった。

現在、人間発達学部国際交流委員会では、第3回目のヨーロッパ教育セミナーの実施に向け、さらに良い研修を実現するために場所や内容の再検討を行っている。このような特別な研修の機会を利用して、日常の学業では経験できない様々な体験も大切な大学生活の一部であると考え、より多くの学生に参加していただきたい。

国際交流委員長 教授 石田直章

## 2013年度 ブライトン 大学賞

2013年度ブライトン大学賞授賞式が、2月28日(金)名古屋東急ホテルにて行われました。今年度は、ブライトン大学から Prof.Bruce Brown (ブライトン大学副総長)と



Prof. Anne Boddington (ブライトン大学美術学部長)、イギリスから河野英一名古屋芸術大学名誉教授が来日され、卒業制作展の行われている3会場の内、愛知県美術館、名古屋市民ギャラリー矢田を廻って作品を審査し受賞者を決定されました。

表彰式は、竹本学長先生の



挨拶に始まり来訪教授達による挨拶及び講評に続いて表彰状授与及び講評となりました。今年度は、ブライトン大学からの意向で当日まで未発表のため発表の瞬間まで会場は緊張した雰囲気になっていました。発表は、佳作6名・奨励賞2名・優秀賞1名・グランプリ1名の順に行われました。受賞した学生達は何時自分の名前が呼ばれるか真剣に聞き入っていました。また新企画として作品の解説に加えて、新たに作品紹介のスライドも上映しました。

ブライトン大学との交流は、18年を迎えました。この交流がますます発展することを願います。

西キャンパス 学生支援課  
国際交流センター 高橋和裕

### 2013年度ブライトン大学賞受賞者

賞	コース	氏名	作品名
グランプリ	美術学部版画	林 淳一郎	「Theoria」
優秀賞	デザイン学部 メディア・デザイン	羽根田穂乃	「日本神話絵本」
奨励賞	1 デザイン学部 メタル&ジュエリー・デザイン	佐藤 義之	「歩くたからもの」
	2 美術学部洋画1	吉村千賀子	「鶏様」
佳作	1 美術学部彫塑	黒住 優里	「優しい場所」
	2 美術学部日本画	石川 幸奈	「ふたりひとつ」
	3 デザイン学部 メタル&ジュエリー・デザイン	石川 美帆	「ニワトリ」
	4 デザイン学部 メタル&ジュエリー・デザイン	中川 朋子	伊勢神宮解説ガイドブック「伊勢神宮とことんおまいり」 地域発デザイン「伊勢にきてえな!」パッケージデザイン
	5 デザイン学部 ヴィジュアル・デザイン	高田 若葉	銭湯部/「銭湯な日常」ポスター
	6 デザイン学部 スペース・デザイン	野寺 理恵	住まいで商う ~岐阜県養老町活性化計画~



審査の様子



グランプリ 林淳一郎 「Theoria」



優秀賞 羽根田穂乃 「日本神話絵本」

## 同窓会総会・卒業生懇親会

### 〈音楽学部〉

去る2013年12月1日(日)に名古屋芸術大学東キャンパスにおいて、音楽学部同窓会総会と、同窓会及び音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。

総会は2号館中アンサンブル室で行なわれ、山田正文会長(10期声楽卒)を議長に、平成25年度事業報告・決算報告、平成26年度事業計画・予算案などを審議し、いずれも原案どおり承認されました。

総会閉会后、会場を2号館ロビーに移しての「懇親会」は約200名の参加者を迎え、今回も盛会となりました。加藤尚二さん(13期音教卒)の司会によるパーティーは山田会長の挨拶の後、川村大介理事長・山田敏裕音楽学部長・青木高弘美術デザイン学部同窓会長・舟橋文子短大同窓会長にご挨拶をいただき、山田会長による乾杯の発声をきっかけにたくさんの歓談の輪ができました。サクソフォンの服部莉佳さんを中心とするRH Quartetによるジャズ、トランペットの尾関亜也奈さんを始めとする金管五重奏による演奏の他、ピンゴ大会で大いに盛り上がりました。

恩師や友人との久しぶりの再会ということもあり、パーティー終了後も話し声は尽きませんでした。



### 〈美術学部・デザイン学部〉

#### 第26回 名古屋芸術大学美術・デザイン学部 同窓会総会 次第

と き / 2013年11月10日(日) 15:00 ~      ところ / メルパルク

#### 開会の辞

#### 会長挨拶

#### 議長選出

#### 議 事

1. 事業報告  
(2012.10.01 ~ 2013.9.30)
2. 決算報告及び監査承認  
(2012.10.01 ~ 2013.9.30)
3. 役員紹介
4. 事業計画  
(2013.10.01 ~ 2014.9.30)
5. 予算案承認  
(2013.10.01 ~ 2014.9.30)
6. その他

#### 議長解任

#### 閉会の辞

#### 事業報告

- ・役員会 9回(反省会・三者会・総会準備会も含む)
- ・第25回総会・懇親会の開催
- ・会報『NUA PRESS』No.19の発行
- ・同窓生の活動支援
- ・展覧会における後援 22件
- ・在校生に対する就職支援
- ・名簿作成準備
- ・会計への税理士依頼

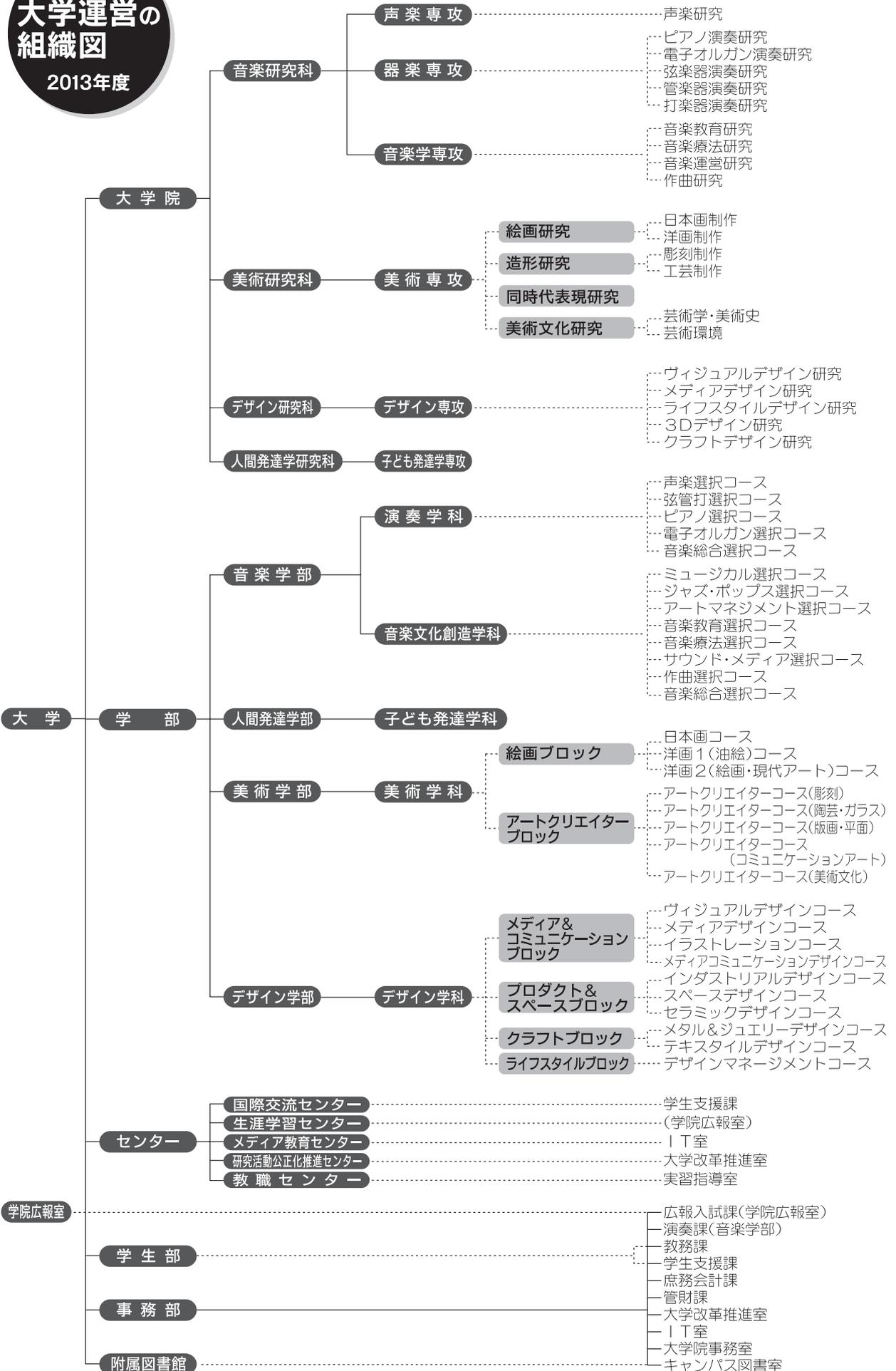
#### 事業計画

- ・役員会 9回(反省会・三者会・総会準備会も含む)
- ・第26回総会・懇親会の開催
- ・会報『NUA PRESS』No.20の発行
- ・同窓生の活動支援
- ・展覧会における後援
- ・同窓会主催のOG・OB展の開催
- ・在学生に対する就職支援(3回予定)
- ・名簿作成
- ・会計への税理士依頼



## 大学運営の組織図

2013年度



# 後援会学費貸付事業

日本経済も長く続いた不況をようやく抜け出すような気配が感じられますが、まだまだ本当の回復とはいかない状況が続いています。このような状況の中、保護者が亡くなられたり、病気や失業されたりしたご家族は大変だと思います。こういったことに対して少しでも助けになればと始められたのが、この学費貸付事業です。後援会の皆様の会費を基金にしているため、貸付を受けるにはいくつかの条件がありますが、本規程をお読みいただき学費貸付事業を活用していただけたらと思います。申込み受付は各キャンパス学生支援課となっています。気楽に相談してみてください。(※2011年度より内規にて貸付対象者は最高学年在学者としています。)

## 名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

### (目的)

第1条 名古屋芸術大学後援会(以下「後援会」という。)が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

### (定義)

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生(以下「貸与生」という。)と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

### (資金)

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

- (1)後援会学費貸付口座預金
- (2)この規程に基づく返還金
- (3)寄付金・その他の収入

### (貸付額)

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

- 2 貸付金は無利息とする。
- 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

### (貸付方法)

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

### (審議)

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

### (貸与生の決定)

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

### (貸与生の選考基準)

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

- (1)1年以上継続した本会会員の子弟であること。
- (2)家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
- (3)応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
- (4)修学に十分耐うるものと認められること。

### (申請手続)

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生支援課を窓口とする。

- (1)後援会貸付金借用願
- (2)貸付金返済計画書
- (3)学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書
- (4)学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

### (借用手続・借用証書)

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1)借用証書(借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する)
- (2)貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3)銀行口座振替依頼書(自動送金サービス用)(学籍を離れる時に提出するものとする)

### (返還及期間)

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

- 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
- 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 4 返還は、学生支援課を窓口とする。

### (返還猶予)

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

### (権限委任)

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

### (改廃)

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

### 附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

# 名古屋芸術大学・大学院後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学・大学院後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学・大学院の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
  - (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
  - (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学・大学院学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
- (1) 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
  - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
  - (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任務は次のとおりとする。
- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
  - (2) 監事は会務を監査する。
  - (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
  - (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
  - (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会を置く。
- (1) 総務委員会
  - (2) 事業委員会
  - (3) 広報委員会
- 第14条 委員会に、委員長1名、副委員長2名および委員若干人を置く。
- 2 委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は委員会の同意を得て会長が指名する。
- 第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を延べる。
- 第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第17条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第18条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
  - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
  - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
  - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
  - 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。

## 名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員の子親等血族および親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

## 名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年（平成17年）4月1日から適用する。



